

<平成30年度>

第6回 理事会議案書

平成30年 11月 15日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

平成30年度 第6回理事会 議事次第

一般社団法人 全 国 鐵 構 工 業 協 会

場 所：鉄鋼会館 705号室

日 時：平成30年11月15日(木)

14:00～17:00

1. 開会の辞

2. 定足数確認報告(定款第36条)

3. 会長挨拶

4. 前回理事会議事録の確認

5. 審議事項

資 料

第1号議案 賃金規程の一部改定(住宅手当新設)について ----- 理 30-6-議 1 <p3-4>

6. 報告事項

- (1) 新年賀詞交歓会等実施要領(当日スケジュール、式次第 等) ----- 理 30-6-報 1 <p6>
- (2) 関東支部からの要望書(高力ボルト等資材調達難への対応) ----- 理 30-6-報 2 <p7-8>
- (3) 平成29年度鉄骨技術研究開発助成対象案件の成果報告----- 理 30-6-報 3 <別冊>
- (4) 鉄骨技術者教育センター設立準備進捗状況報告及び ----- 理 30-6-報 4 <p9-10>
センター業務開始にともなう事務所整備について
- (5) 個別課題検討WG設置について ----- 理 30-6-報 5 <p11>
・クレーン運転士免許試験対応 ・女性活躍策
- (6) 代表理事等の業務執行状況報告----- 理 30-6-報 6 <p13-14>
- (7) 委員会報告
 - ①技術委員会 ----- 理 30-6-報 7① <p15-17>
 - ②企画委員会 ----- 理 30-6-報 7② <p19>
 - ③教育・人材育成委員会 ----- 理 30-6-報 7③ <p20>
 - ④品質管理委員会 ----- 理 30-6-報 7④ <p21-25>
- (8) その他 ・青年部会意見交換会アンケートまとめ ----- 理 30-6-報 8 <p27-32>

7. その他の事項

- (1) 構成員登録状況 ----- 理 30-6-他 1 <p34-38>
- (2) 着工面積と推計鉄骨需要量 ----- 理 30-6-他 2 <p39>
- (3) 主要会議日程 ----- 理 30-6-他 3 <p40>
- (4) 支部報告 ----- 理 30-6-他 4 <p41-58>
- (5) その他

8. 閉会の辞

以上

第1号議案 賃金規程の一部改定(住宅手当新設)について

賃金規程を一部改定し、住宅手当を新設する件について、承認の決議をいただきたい。

H30. 11. 15.

第1号議案 賃金規程の一部改定(住宅手当新設)の件

下記のとおり賃金規程の第9条(諸手当)に住宅手当を追加し、第13条(住宅手当)を新設する。

1. 住宅手当新設の理由：

当協会事務局職員の採用にあたり、能力・適正等の確実性を担保するため、当協会及び全鉄評の委員等を委嘱している学識者が推薦する学生(卒業生を含む)を有力な採用候補対象として求人活動を行っている。

これまで、自宅通勤可能者を採用する観点から、推薦依頼対象大学を東京都内及び近郊の大学に限定してきたが、近年の労働需給の逼迫化を背景に当協会への就職希望者がおらず、採用できない状態が続いている。

この事態を打開するため、対象大学を全国に拡大し、地方出身者を採用対象に加えることとし、その受入れ環境整備のため住宅手当を新設する。

2. 賃金規程改定の内容：

現行規程（平成29年5月改定）	改定規程(案)
(諸手当) 第9条 諸手当は次のとおりとする。 1. 時間外および休日勤務手当 2. 家族手当 3. 通勤手当 (時間外および休日勤務手当) 第10条 (省略) (家族手当) 第11条 (省略) (通勤手当) 第12条 (省略) (病気休職者および起訴休職者の給与) 第13条 (省略) (賞与) 第14条 (省略)	(家族手当) 第9条 諸手当は次のとおりとする。 1. 時間外および休日勤務手当 2. 家族手当 3. 通勤手当 4. <u>住宅手当</u> (時間外および休日勤務手当) 第10条 (省略)〈変更なし〉 (家族手当) 第11条 (省略)〈変更なし〉 (通勤手当) 第12条 (省略)〈変更なし〉 (住宅手当) 第13条 <u>所定の条件を満たす者に対して別途定める住宅手当を支給する。</u> (病気休職者および起訴休職者の給与) 第14条 (省略) 〈条文番号のみ変更、以下同様〉

3. 施行時期：

平成31年1月1日支給給与より

以上

2018.11.15.

住宅手当細則(家賃補助制度)案

1. 対象者： 地方大学新卒者で自宅（実家等を含む）からの通勤時間が、片道概ね1時間30分（鉄道乗車時間）以上かかる者。
新卒者以外の新規入職者についても、状況に応じ、必要と認められる場合には、会長の承認を得て対象とすることができる。
2. 補助額： 家賃実費（共益費を除く）の70%。5万円を上限とする。
（月額）
3. 年齢制限・期間上限：
35歳未満。且つ入職後10年間。
4. その他： ・要扶養者同居の場合も同条件とする。
・礼金は全構協負担、敷金は本人負担とする。

以上

報 告 事 項

2018. 11. 15.

平成31年新年賀詞交歓会〔1月18日(金)〕 当日のスケジュール等

1. 場 所

鉄鋼会館

〔東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10
TEL 03-3669-4856〕

2. 時 間 割

- | | | |
|------------|-----------------------|-----------|
| (1) 三 役 会 | 9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0 | 会 長 室 |
| (2) 理 事 会 | 1 2 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0 | 8 0 5 号 室 |
| (3) 全国理事長会 | 1 4 : 1 5 ~ 1 6 : 1 5 | 7 0 1 号 室 |

〔次 第〕

① 会長挨拶 14 : 15--14 : 25

② 事業報告等 14 : 25--14 : 50
(各委員会 3~5 分)

〔・運営委員会 ----- 大島委員長
・技術委員会 ----- 神崎委員長
・企画委員会 ----- 村山委員長
・教育・人材育成委員会 -- 高橋委員長
・品質管理委員会-委員長- 永井委員長〕

③ 講 演 15 : 00--16 : 15

講 師 : 久田直子 氏 (元NHK「きょうの健康」キャスター)

テーマ : (仮題)老いてますます健康に! ~病気を予防する食事と運動~

(4) 新年賀詞交歓会 1 6 : 3 0 ~ 1 8 : 0 0 9 0 1 号 室

〔次 第〕

① 会長挨拶 (一社)全国鐵構工業協会 会長 米 森 昭 夫

② 来賓挨拶 参議院議員 佐 藤 信 秋 様
参議院議員 足 立 敏 之 様
経済産業省 製造産業局金属課長 黒 田 紀 幸 様
国土交通省 住宅局建築指導課長 淡 野 博 久 様

③ 乾 杯 (一社)全国鐵構工業協会 玉 木 顧 問

④ 中 締 (一社)全国鐵構工業協会 村 山 副 会 長

以 上

平成 30 年 10 月 30 日

一般社団法人 全国鐵構工業協会
会 長 米森 昭夫 様

一般社団法人 全国鐵構工業協会
関東支部 支部長 大竹 良明



要 望 書

平素は、関東支部の活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年の鉄骨需要は、都市部を中心とした大型再開発や東京オリンピック・パラリンピック特需などを追い風に堅調な動きを示し、今年度も500万トン超の年間需要が見込まれています。こうした環境下、関東支部の会員は地域を問わず繁忙状態が続き、手持ち工事量も極めて高い水準にあります。

しかし一方、今年に入ってプレスコラム、外法H、切板、ボルト等の需給ひっ迫が顕著となり、納期の長期化が大きな問題として浮上しています。これらの影響で工場製作、あるいは現場工事が進められない状況に陥る会員も散見され、ファブ業界の死活問題になりつつあります。

また、これまで会員は一般社団法人全国鐵構工業協会（以下、全構協）主導のもと、学校施設のS造化促進をはじめ、鉄骨需要の拡大に向けた取り組みを推進してきましたが、さまざまな材料の納期が長期化する現況は、鉄骨造の優位性のひとつである『工期短縮』というメリットを損ない、足元だけにとどまらず、中長期的観点からも鉄骨需要そのものの減退につながることを懸念されます。

このような状況を踏まえて関東支部では、全構協に対し、『関係各メーカーに安定供給を申し入れる陳情活動の実施』を要望すべきとの判断に至りました。

全構協におかれましては趣旨ご理解の上、よろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

以上

2018年11月15日

ボルト需給に関するメーカー聴取について

高力ボルトの需給逼迫状況を踏まえ、ボルトメーカーから需給環境の聴取を実施するとともに、今後の状況改善に向けて、認識の共有化と安定供給の要請を実施した。

I. 聴取実施メーカー

日 時	11月7日 13-14時	11月7日 15-16時	11月8日 10-11時
メーカー	日本ファスナー工業(株)	日鉄住金ホルテン工業(株)	神鋼ボルト工業(株)

※全構協側：米森会長、村山副会長、永井副会長、高橋副会長、齊藤専務、大橋事務局長

II. メーカーからの聴取内容(1) 高力ボルトの供給(流通)構造

◎供給(生産)量は、全メーカーで月間1万トン、年間12万トンレベル。

メーカー	日鉄住金ホルテン	神鋼ボルト	日本ファスナー工業	他メーカー(複数社)
推定数量(t/月)	約4,000t	約2,000t	約2,000t	約2,000t
推定シェア(%)	40-45%	20-25%	20%前後	各社数%

- ・流通形態：ボルトメーカー ⇒ 商社 ⇒ 特約店 ⇒ ファブ ※中小ファブの場合はこの形態が中心
- ・納入形態：ボルトは、使用タイミングギリギリ(1wから10日前)で納入。
- ・足元は、残業、休出を含め、フル生産(余力なし)の状況。 ※素材も生産見合いで対応(請求)済み

(2) 需給逼迫状況

◎6月頃から急激に変化、夏頃から現場建て方が重なった事もあり逼迫、足元も逼迫状態継続。

- ・5-6ヶ月前に手配しないと間に合わない状況で推移。
- ・本来在庫を保有している特約店の在庫枯渇、メーカー在庫も急減、工程内の在庫位しかない状態。
- ・特に、従来市中材で手配している“R”、“J”等、中小ファブの足元案件が厳しい状況。

※状況改善に向けた受注面での対応として、一部メーカーでは、受注内容の精査と引受調整を実施中。

(3) 需給逼迫の背景と今後の見通し<需給逼迫の背景>

◎過去ボルトが逼迫するという環境(耐性)がなく、情報が少ない中で、混乱が拡散・増幅。

- ・昨年から、一部メーカーにおいて品質問題、納期問題が発生した事を契機に、数量調整環境あり。
⇒ 各社の需要予測では、概ね前年並みを想定するも、上記各社個別事情もあり、生産・引受の数量においては、横ばいないしは、やや下方水準での(少なくとも高くない)計画を立てていた模様。
- ・遅れていた工事のタイミングが夏場に集中、そのまま秋需(10-12月)の時期を向かえ、混乱継続。
- ・素材は、需要予測に基づき、3ヶ月前発注(高炉への請求)。 ※数量急増時の瞬発力なし
- ・溶接工不足、工法等の関係もあり、ボルト(接合)が増加している可能性もあり。

<今後の見通し>

- ・ボルトメーカーの供給余力(上方弾力性)は乏しく、当面供給増による状況改善は難しい。
- ・足元は、受注内容の精査(受注明細精度向上)を進め、年末までに契約残(予定)の整理を実施。
- ・年明け以降、不需要期を迎えることから、需給改善進展、4月以降は徐々に解消したい。

以上

平成 30 年 11 月 15 日

鉄骨技術者教育センター業務開始にともなう全構協等の事務所整備について

鉄骨技術者教育センターは、第三者性が担保された独立した法人であることが強く求められており、その事務所に関しても全構協から独立したもの(別室化等)であることが必須条件となっているため、全構協、全鉄評、教育センター各々の独立性を確保できるよう事務所の整備を行う。

A 案： 現在の場所(兜町エスケア 1 階)のレイアウト変更で対応する

B 案： 現在の場所から移動する

- ・近隣の不動産物件を数か所調査したが、家賃、利便性で適切な物件が無い。
- ・兜町エスケア 2 階が 2019 年 3 月末に空く可能性あり。

1. 長短比較

A 案	B 案(エスケア 2 階案)
×強い手狭感がある ・会議室を確保できない。 ・十分な応接スペースを確保できない。 ・書庫の十分なスペースが確保できず、必要書類の多くを貸倉庫等に移動して保管する必要がある。 (40～50 万円/年負担増)	○十分な広さが確保できる ・広い会議室を確保できる (鉄鋼会館の貸会議室借用回数減少) ・十分な応接スペースを確保できる ・書庫の十分なスペースが確保でき、ほとんどの必要書類を手元で保管が可能。
×全構協、全鉄評、教育センター各々の完全な別室化ができない(パーティションによる区分けにとどまる)	○全構協、全鉄評、教育センター各々の完全な別室化が可能。

2. 初期費用概算比較

	A 案	B 案	差
内装、什器等	800 万円	1,200 万円	400 万円
ネット、電気、電話等	300 万円	400 万円	100 万円
移動・原状回復	—	700 万円	700 万円
合計	1,100 万円	2,300 万円	1,200 万円

3. 家賃等比較

	A案	B案	差
面積(坪)	74.1	107.8	33.7
月額家賃等(円/坪)			
家賃	12,000	14,000	2,000
共益費	5,000	5,000	0
清掃等	1,200	1,200	0
月額合計(円/坪)	18,200	20,200	2,000
月額合計(総額・円/月)	1,348,620	2,177,560	828,940
年額合計(総額・万円/年)	1,618	2,613	995

4. 全構協負担額の比較(現在と2階移転後の比較)

	現在	2階へ移転後	差
家賃等年額合計(総額・万円/年)	1,618	2,613	995
全構協負担(万円/年)	1,338	2,063	725
全鉄評負担(万円/年)	280	350 *	70
教育センター負担(万円/年)	0	200 *	200

*: 2階へ移転後の全鉄評、教育センターの負担額は今後の交渉により変動。

※全構協の負担額増加分は、自前会議室活用による鉄鋼会館貸会議室使用料支出減等により、ある程度相殺することは可能であると考えられる。

以上

2018.10.9

「無線操作式クレーン(5t以上)」 保有工場数一覧

* 右欄は、2018.3.31時点の構成員登録数

支部名	県名	S		H		M		R		J		未		計	
北海道	北海道		0	6	17	0	33	0	13	0	2	0	6	6	71
東北	青森		0	1	6	0	15	0	8	0	2	0	8	1	39
	岩手		0	1	3	0	15	0	4	0	1	0	8	1	31
	宮城	1	1	3	3	2	15	0	12	0	2	0	8	6	41
	秋田		0	2	5	3	11	0	3	1	0	0	5	6	24
	山形		0	3	3	0	9	0	6	0	0	0	7	3	25
	福島		0	1	3	0	24	1	18	0	3	0	15	2	63
関東	茨城		0	1	3	1	22	0	18	0	1	0	17	2	61
	栃木		0	0	5	2	15	0	18	0	2	0	10	2	50
	群馬		0	4	5	1	25	0	22	0	0	0	14	5	66
	埼玉		0	6	6	1	23	0	19	0	0	0	5	7	53
	千葉		0	9	4	2	27	0	10	0	0	0	15	11	56
	東京		0	4	5	6	23	0	14	0	0	0	7	10	49
	神奈川		0	1	3	0	22	0	7	0	0	0	6	1	38
	新潟	0	1	0	9	4	27	0	24	0	4	0	25	4	90
	山梨		0	1	3	0	13	0	6	0	0	1	9	2	31
	長野	0	1	3	10	0	26	0	8	0	1	0	20	3	66
北陸	富山		0	4	9	1	12	0	14	0	0	0	4	5	39
	石川		0	1	6	0	10	1	13	0	0	0	2	2	31
	福井		0	3	10	5	20	0	5	0	1	0	2	8	38
中部	岐阜		0	3	5	7	16	2	26	0	2	2	21	14	70
	静岡		0	2	7	3	36	0	25	0	0	0	27	5	95
	愛知		0	5	14	5	27	2	63	0	9	0	32	12	145
	三重		0	3	3	6	32	0	19	0	2	0	7	9	63
近畿	滋賀		0	3	5	0	7	0	8	0	0	0	12	3	32
	京都		0	1	3	2	11	0	17	0	1	0	16	3	48
	大阪		0	3	11	1	49	0	30	0	0	0	21	4	111
	兵庫		0	6	14	4	39	0	13	0	1	0	6	10	73
	奈良		0	0	1	0	13	0	12	0	4	0	9	0	39
	和歌山		0	2	3	2	8	1	14	0	1	0	11	5	37
中国	鳥取		0	3	2	0	9	0	3	0	0	0	1	3	15
	島根		0	0	1	0	6	0	8	0	1	0	8	0	24
	岡山		0	1	4	0	12	0	6	0	2	0	10	1	34
	広島		0	2	7	5	23	0	24	0	3	2	18	9	75
	山口	1	1	0	4	0	14	1	12	0	0	0	10	2	41
四国	徳島		0	1	4	1	8	0	9	0	2	0	3	2	26
	香川	1	賛助		1		14		13		0		19	1	47
	愛媛		0	2	5	1	9	0	13	0	3	0	10	3	40
	高知		0	2	2	0	9	0	10	0	0	0	1	2	22
九州	福岡		0	6	10	1	29	0	7	0	0	0	6	7	52
	佐賀		0	0	1	0	11	0	10	0	1	0	1	0	24
	長崎		0	1	2	2	15	0	1	0	0	0	1	3	19
	熊本	1	1	2	6	1	11	0	3	0	0	0	1	4	22
	大分		0	4	4	0	9	0	1	0	1	0	3	4	18
	宮崎		0	3	3	0	4	0	13	0	0	0	3	3	23
	鹿児島		0	3	3	0	16	0	5	0	0	0	7	3	31
	沖縄		0	0	5	0	3	0	1	0	0	0	4	0	13
合 計		4	5	112	248	69	827	8	608	1	52	5	461	199	2,201
		80%		45%		8%		1%		2%		1%		9%	

なお、各事項の詳細内容については、平成30年度第1回理事会から第5回理事会において説明・報告済であるため、本日の報告は、項目の報告のみといたします。

13

	代表理事	業務 執行理事	備考
4.陳情活動等			
(1) 鉄建協との共同陳情への参加 7月17日～8月7日	◎	◎	
(2) 高力ボルトメーカーへのヒアリング及び納期改善要請11月7日	◎	◎	
5.青年部会の育成等	◎	◎	
(1) 青年部総会・全国大会への出席 (4月21日/広島)			
(2) 青年部会三役との懇談会 (7月4日)			
(3) 各県青年部代表者との懇談会 (9月21日)			
6.対外活動及び他団体との連携強化			
(1) 評価機構	◎	◎	
・ 取締役会 5/23 10/11 ・ 総会 6/8			
(2) その他団体等	◎	◎	
・ 日本建築構造技術者協会 総会 6/20 ・ 幹部との懇談会 7/4			
・ 溶接協会 幹部との懇談会 6/29			
・ AW検定協議会 幹部との懇談会 7/25			
・ JFEスチール建材部門懇談 7/11 ・ 新日鉄住金建材事業部懇談 8/29			
・ 衆議院議員との懇談 4/19			
7.報道機関への対応	◎	◎	
・ 報道機関7社 記者との懇談会 9月4日			

◎= 主たる執行者

〈 2018 年度 〉
第 2 回 技 術 委 員 会 議 事 録 (案)

1. 日 時 平成 30 年 10 月 31 日 (水) 16 : 00 ~ 17 : 00
2. 場 所 鉄鋼会館 804 号室
3. 出席者 神崎委員長、齋藤、稲垣両副委員長
安田、栗原、平田、上柿、益田、渡部、岩永 各委員
(事務局) 大橋、猪砂、高野、瓜生

4. 議事次第

資料 No.

- 1) 委員長挨拶
- 2) 前回議事録の確認
 - ・ 前回 (6/15) 議事録
- 3) WG 報告
 - ①教材確認WG
 - ・ 第 1 回WG (7/31) 議事録 No. 1
 - ・ 第 2 回WG (10/4) 議事録 No. 2
 - ・ 「仮設金物類の原価算出資料」改正案 (抜粋) No. 3
 - ②マニュアルWG
 - ・ 第 1 回WG (10/3) 議事録 No. 4
 - ・ 「検査基準マニュアル」改正案 (抜粋) No. 5
 - ・ 学科UT規準新旧対照表 No. 6
 - ・ 「学会UT規準」改定講習会 案内 No. 7
- 4) 性能評価適用範囲等の改正に伴う「工場審査の手引き」の修正について
 - ・ 全鉄評より 別添
- 5) その他
 - ①次回開催について

5. 議事要旨

- 1) 委員長挨拶

神崎委員長より、次の挨拶があった。

「前回会議以降、各WGで具体的な検討を行って頂き感謝している。本日それぞれ進捗状況を説明するが、ご意見を頂きながらより良い内容に仕上げていきたい。引き続き、ご協力をお願いします。」
- 2) 前回議事録の確認
 - ・ 前回 (6/15) 議事録を確認した。
- 3) WG 報告
 - ①教材確認WG

2 / 3

齊藤GLより、「仮設金物類の原価算出資料」（改訂版）の進捗状況について、次の報告があった。

- ・第1回WG（7/31）で、本資料改定の是非について議論した結果、「原価を意識付けるためにも意味がある」ことから、改定する方針を決めた。
- ・第2回WG（10/4）で、掲載する仮設金物類の種類、掲載方法などについて、関連図書を参考に具体化した。
- ・作業は、上柿委員が青年部時代に作成途中であったものをベースに行った。資料No. 3はその抜粋版である。

【資料No. 3（抜粋版）の概要】

- ・成果物は、紙ベースではなく、データ（エクセル版）とした。
- ・「単価入力シート」の労務費単価、部材単価を入力すれば、各シートの総原価が自動計算されるように作成してある。
- ・各シートとも、取付費（1箇所あたりの取付時間）、溶接費（1箇所あたりの溶接長）、諸経費（一律5%）は、既に入力済みであるが、各社で修正は可能。
- ・掲載する仮設金物類は、23種類（約90シート）ある。

WG案に基づき質疑応答を行い、引き続きWGで作成することが了承された。

なお、1箇所あたりの取付時間について、齊藤GLより、11月中に作成されるWG案が妥当であるかの確認をしたい旨の提案があり、後日、事務局より全委員に依頼メール（回答は年内）をすることが承認された。

②マニュアルWG

稲垣GLより、学会UT規準の改正に伴う「検査基準マニュアル集」（改訂版）の作成状況について、次の報告があった。

- ・第1回WG（10/3）で、学会UT規準の改定案情報を確認し、検査基準マニュアルへの反映について検討した結果、今回改訂は、次の点のみのマイナーチェンジとすることとした。
 - ・コラム角部の感度補正量（コラム板厚の拡大に伴う改正）を挿入する。
 - ・65度の探触子が選定できるように追記する。
- ・付則2「固形エンドタブを用いた梁端フランジ溶接始末端部の超音波探傷検査方法」については、現行規準より簡易に検査・判定ができる内容に改正され、今後適用が増える可能性はあるが、マニュアルには詳述しないことにした。
- ・WG案（抜粋）と同時に「主要改正箇所一覧」も作成する。
- ・成果物（検査基準マニュアル（改訂版）＋主要改正箇所一覧）は、県組合にメール配布する。構成員へは、県組合から配布してもらう。

WG案に基づく質疑応答を行い、本案について承認した。

なお、学会UT規準の改正講習会開催について紹介し、委員の参加を要請した。

3 / 3

4) 性能評価基準の適用範囲等の改正に伴う「工場審査の手引き」の修正について

全鉄評の斉藤評価課長より、本年4月6日に改正された適用範囲等の内容と評価事務取扱上の留意点について説明があり、本件を「工場審査の手引き」(平成27年作成)へ反映することとした。なお、本手引きは、修正後、県組合(事務局)に配布する旨補足した。

5) その他

①「鉄骨製作工場の超音波自主検査における技術資格の考察」

神崎委員長より、NDIのUTレベル2と建築鉄骨超音波検査技術者を比較し、「建築鉄骨の溶接部に於いては、専門的技量を有する鉄骨超音波技術者を配置することが肝要」と結論つけた考察文書を紹介し、本考察を今後の鉄骨超音波資格の周知に役立てたい旨の説明があった。

②次回開催について

次回開催を平成31年1月30日(水)14:00~17:00とし、各WGの活動報告と次年度計画について検討することとなった。

教材確認WGは、1月19日(土)9:30~開催される(11月30日は中止)。

以上

平成 30 年 10 月 10 日
企 画 委 員 会企画委員会 テーマ選定検討について

◎「運営委員会」・「技術委員会」に検討を依頼するテーマ

1) テーマ選定の考え方と内容

テーマ選定検討の第一弾として、過去 2 年間のビジョン委員会の答申（抽出テーマ）内容を前提に、優先度の高い「すぐに取り組むべき課題（16 テーマ）」の中から、常設委員会（運営、技術）に依頼する各 2 テーマを選定する事とした。

2) 選定の方法

各委員から事前にご提出をいただいた選定テーマ案の集約結果に基づき、テーマ選定の理由・背景、各常設委員会に検討してもらう具体的な内容を協議した。協議の結果、企画委員会として下記 4 テーマを選定した。

3) 選定検討結果

対象委員会	区分	テーマ名	具体的な検討・取組み内容
運営委員会	商習慣の改善	支部報告書式の見直し・統一化	・支部報告書式の見直し・整備 ・使える、意味のある資料（活動）にするため、報告内容の整理、書式統一を検討。
	各種研修会の検討	後継経営者・幹部研修等新規研修会の検討	・「アマダでの研修」、「経営力向上研修」等をまえ、今後の研修の内容、頻度、実施方法等を検討。 (※来年度からの実施に向けて検討。)
技術委員会	商習慣の改善	見積り条件の統一化	・見積り条件（見積り単位、付帯関連）の確認・整理と統一（書式作成）。 ・Mグレード以下のファブも活用出来る様な見積り条件書（書式）の見直し・統一と各ファブへの展開・周知（教育）
	CAD 担当者が抱える問題の解決	(CAD 担当者用) 作業工程表フォーマット作成	・ファブの中で、業務負荷の集中している CAD 担当者の負担軽減、手助けとなる様なスケジュール・工程管理表を（統一）作成。 ・統一フォーマットについて、全構協として、周知（共通認識化）活動を展開。

以上

教育・人材育成委員会 テーマ選定検討結果報告

「教育・人材育成」の観点で、全構協が取り組むべき最優先のテーマを検討した結果、次の通りとなった。

1. テーマ

新人教育用マニュアルの作成

2. 理由

- ①新卒及び中途採用の社員教育は、下位グレードになるほど出来ていないのが実状と思われる。特に下位グレードでは、建築分野以外から不定期に入職する場合が多く、その都度、建築や鉄鋼の基本から教育する必要があるが、適した教材がない。
- ②近年の、いわゆる「ゆとり世代」の入職者は、最初の教育が出来ないうちに工場での作業をするとすぐに辞めてしまうことも多く、安全上も問題である。
- ③下位グレードでは、指導教育する人的余裕もなく、教育方法も体系的になっていない。

人手不足の中、せっかく入社した人材を逃さないためにも、全構協として「新人教育用マニュアル」を作成して欲しい。

3. マニュアルのイメージ

①対象

- ・新卒及び中途採用の社員（建築・溶接などの基礎教育を受けていない者）

②成果物

- ・教育カリキュラム
- ・各教材（社内教育用DVDを含む）

③教育内容（例）

- ・社会人としての最低限のマナー、ルール編
- ・自社のルール編
- ・人間関係で悩む人の為の、人・性格編
- ・建物の基礎編
- ・設計図書・図面編
- ・材料編（基礎／主部材／2次部材／小物部材）
- ・溶接編
- ・検査編
- ・塗装・メッキ編
- ・安全編

以上

H30.11.15.

品質管理委員会

品質管理体制に関して全構協が検討すべきテーマ（案）

平成30年1月30日付けの「品質管理体制検討委員会報告書」において全構協が行う施策として提言されたA1からC5までの9のテーマについて、その目的と内容、優先度等を本委員会でも再検討した結果、以下の方針とした。

1. 全構協としてすぐに取り組むべき検討テーマ

B1	全構協が構成員の工場認定条件の保持状態を保証する
背景	① 認定時の資格者が交替したり辞めてたりしても報告しない工場があり、所定の品質を確保できない恐れがある。 ② 性能評価時だけ資格者を雇うような悪質なケースもある。 ③ 全構協として中間検査をやるべきとの意見が構成員にもあり、自主的にやっている組合もある。 ④ 全構協に属さないアウトサイダーが野放しになることが問題。 ⑤ 国交省が中間検査を義務づけないと全認定工場を検査することはできない。
目的	工場認定制度の信頼性の保持と、構成員の社会的信用の確保。
内容	① 全構協（各組合）が認定時の資格者の充足状況について中間検査を行う。 ② 全構協の構成員以外の認定工場が野放しにならない方策も検討する。 ③ 最終的に大臣認定制度で中間検査を義務付けることを目指す。
検討体制	具体的実施案について、引続き品質管理員会で検討する。

2. 理事会の意見を確認する検討テーマ

C4	工場認定制度の問題点の整理と自主評価制度の検討
背景	① 現状の認定制度は、工場の規模や生産能力を評価しないので、ゼネコン等は独自の評価リストを作って発注時のファブ選定の参考にしている。 ② ゼネコン等が新規のファブを探そうとしても、全構協のホームページでは工場規模や生産能力の情報が得られない。 ③ 現状の認定制度を補完し、工事の規模や難易度に応じた最適な工場を選定するための評価基準を求める意見も業界内外にある。しかし、全構協が自主評価制度を創設することについては反対の構成員が多く、実現は難しい。
目的	鉄骨業界の主導権の確保と工場認定制度の維持
内容	① 構成員各社の工場規模、生産能力等の情報を、各県または支部単位でホームページで公開し、全構協のホームページとリンクさせることにより、ゼネコン等のニーズに応える。 ② 自主評価制度については、今後も引き続き検討が必要。

C5	起用ファブの評価制度
背景	① C4 のテーマに関連して、日建連は会員ゼネコンに起用ファブの評価アンケートをとってランク付けし、ファブ選定のための参考資料としている。 ② C4 の全構協による自主評価制度を創設する場合に、設計者・施工者によるファブの評価を反映させるため、ファブが物件ごとにゼネコンにアンケートを書いてもらい、その回答の写しを全構協に提出する制度が考えられる。
目的	鉄骨業界の主導権の確保
内容	① ファブが物件ごとにゼネコンに依頼するアンケートの統一書式を全構協が作成し、構成員の顧客満足度向上の1手段として活用を推奨する。 ⇒アンケートの回答を自社の技術と品質向上のために活用するのは良いが、全構協がその内容でファブを客観的に評価することは不可能。

3. その他のテーマに関する方針

	テーマ	方針
A1	全構協倫理綱領の制定	・H29年度に運営委員会が取りまとめた「全構協 協会理念・行動指針（案）」に倫理綱領は包含されているので、これで良しとする。
A2	全構協倫理綱領の実効性の確保	（理事会で意見を聴いたうえで次回委員会にて検討予定）
A3	全構協の資格者登録規程への倫理的事項の追加	・鉄骨技術者教育センターに依頼する。
C1	価格と工期の適正化活動	・見積条件と見積書式の統一は、技術委員会に依頼する。（企画委員会も同様のテーマを選定。） ・日建連の適正工期算定プログラムへの鉄骨製作工期の追加は、鉄建協の意向を確認のうえ、方針を決める。
C2	鉄骨の品質向上	・継手標準、溶接基準図の統一は、他団体の意見を確認してから方針を決める。
C3	資格者制度の見直し	・鉄骨技術者教育センターの設立により達成される。

以上

全国鐵構工業協会 品質管理体制検討委員会 報告書（概要）

1. 背景・経緯

（1）落橋防止装置等の溶接不良事案の概要

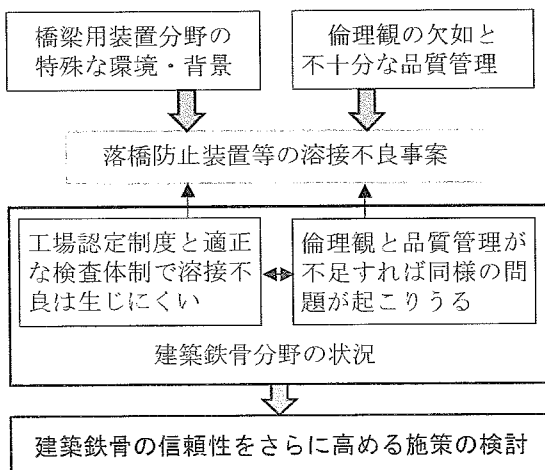
H.27.8	勸進橋での落橋防止装置の溶接不良発覚	製作会社の久富産業（全構協の構成員ではない）と検査会社による不正行為の疑い。
	国交省による久富産業の製品の検査	全 205 橋のうち 169 橋で不良品が発見される。
	国交省による久富産業以外の製品の検査	全 357 社のうち 11 社の製品で不正行為。 （うち 1 社は全構協の構成員）
H27.12	国交省の有識者委員会の中間報告書	原因分析と再発防止策を提言。

（2）行政と全構協のやり取り

H27.12.28	経産省・国交省から全構協への依頼	「落橋防止装置等の溶接不良の再発防止について」 ・品質管理体制や検査方法の遵守を傘下の会員に周知すること。 ・協会としての対応を検討し速やかに回答すること。
H28.1.27	全構協から経産省・国交省に対する回答	「落橋防止装置等の溶接不良の再発防止策等についてご報告」 ・全会員に口頭と書面による指導を実施済み。 ・建築鉄骨の信頼性をさらに高めるための専門の検討チームを設置。

2. 品質管理体制検討委員会の設置

（1）設置の趣旨



（2）設置の目的

建築鉄骨に精通した外部有識者をもって、専門的見地から建築鉄骨の品質管理の課題と原因および対策案を検討し、全構協会長に答申する。

（3）委員会の体制

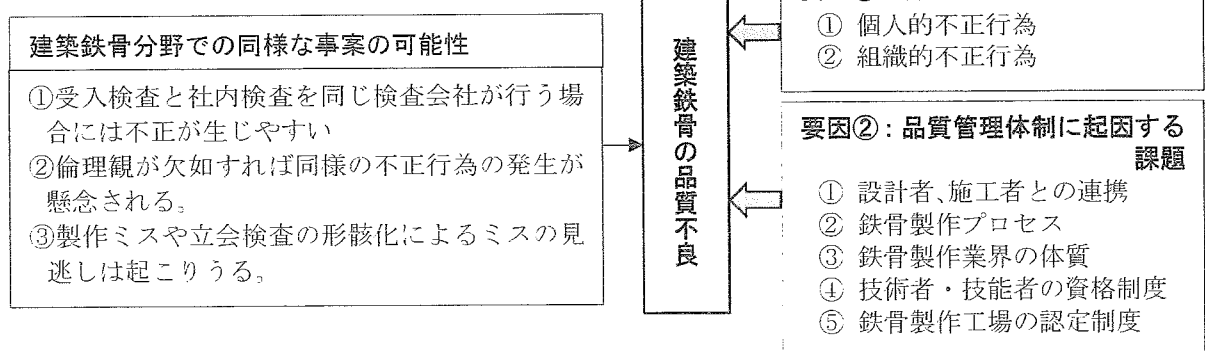
	氏名	所属
委員長	竹原 巖	（一社）全国鐵構工業協会
委員	橋本篤秀	千葉工業大学 名誉教授
委員	渡辺 仁	（一社）日本建築構造技術者協会
委員	犬伏 昭	（一社）日本建設業連合会
委員	護 雅典	AW 検定協議会
委員	山口種美	（株）全国鉄骨評価機構

3. 検討内容

（1）落橋防止装置等の溶接不良事案の分析

※国交省の有識者委員会の中間報告書参照

（2）建築鉄骨の品質不良の要因分析



[理 30-6-報 7] 委員会報告 ④品質管理委員会 -2-☆報告書[概要版]

平成 30 年 1 月 30 日

4. 施策の提言

(1) 全構協が行う施策の提言

施策 A (早期)	全構協の倫理綱領を定め、構成員に遵守を義務付ける。	【目的】不正行為による不良鉄骨の発生防止
A1	全構協倫理綱領の制定	
A2	全構協倫理綱領の実効性の確保（・経営者に対する周知徹底 ・従業員の倫理教育等 ・罰則）	
A3	全構協の資格者登録規程への倫理的事項の追加 （鉄骨製作管理技術者、建築鉄骨製品検査技術者、建築鉄骨超音波検査技術者）	

施策 B (早期)	全構協が構成員の工場認定条件の保持状態を保証する。	【目的】構成員の社会的信用の確保と正会員（各都道府県組合等）の構成員に対する指導力維持
B1	全構協による工場審査の現有資格者名簿の確認 〔毎年定期的に審査時の現有資格者名簿に見え消しで変更事項を上書きして、所属組合等の確認を経て全構協に提出する〕	

施策 C (長期)	鉄骨製作業界の改善、資格者制度の見直し、および現状の工場認定制度の課題を整理する。	【目的】鉄骨製作業界と団体の信頼性の向上
C1	価格と工期の適正化活動	(1) 契約書式と見積単価標準を設定し公開する。 (2) 標準製作工期を設定し公開する。
C2	鉄骨の品質向上活動	(1) 設計・施工・鉄骨製作業界で鉄骨設計・製作の効率化と品質向上に関する懇談会を設立する。
C3	資格者制度の見直し	(1) 鉄骨製作管理技術者の社会的信頼性と技術力を向上させる。 (2) 建築鉄骨製品検査技術者・建築鉄骨超音波検査技術者の社会的信頼性と業務の重要性の認知度を向上させる。（資格者登録まで全構協と鉄建協が行い、責任を持って資格者を登録管理・育成する。）
C4	現状の工場認定制度の問題点の整理及び生産能力と総合的技術力の自主的評価制度の検討	(1) 現状の大臣認定制度の課題・問題点を整理するとともに、全構協が工場の生産能力や総合的技術力等を自主的に評価する制度を検討する。
C5	起用ファブ評価制度の検討	(1) 物件ごとのファブの評価を、設計者・工事監理者・施工者に対しアンケート調査する制度を検討する。

(2) 関連業界に対する施策の提言

施策 D	設計業界への提言
D1	設計図の品質向上
D2	製作に配慮した鉄骨設計
D3	工作図のチェックと承認の迅速化
D4	工事監理の質の向上

施策 E	建設業界への提言
E1	適正価格での発注と契約条件の明確化
E2	適正な製作工期の確保
E3	工作図のチェックと承認の迅速化
E4	現場の鉄骨担当者の育成

施策 F	検査業界への提言
F1	社内検査と受入検査の兼業防止の徹底
F2	検査技術の向上と判定のばらつきの低減
F3	鉄骨専用検査資格の制定・育成・活用の検討

施策 G	材料メーカー、流通業界への提言
G1	鋼材の寸法精度の向上
G2	めっき割れ対策
G3	鋼材の識別表示標準の遵守
G4	水系防錆塗料の施工要領の確立

平成30年11月15日

全国鐵構工業協会 協会理念・行動指針 (案)

I. 協会 基本理念

鉄構製品の適正な品質と安全を確保し、鉄構工業界の発展と技術向上を目指します。

II. 協会理念・行動指針

1. 法令遵守、社会的責任

- ・法令を遵守し、社会からの信頼に応えるため、適正かつ公正な業界を目指します。
- ・鉄構工業の社会的使命と役割を認識し、実践します。

2. 物造り、品質確保

- ・技術・品質の向上に努め、安全で信頼される鉄構製品を社会に提供します。
- ・鉄構製品の製造においては、法令や契約内容・規準等に従って、顧客の要求事項を確実に実現します。

3. 技能伝承

- ・専門的技術・技能の研鑽に努め、担い手を育成する事により、将来に亘って技術・技能の継承が出来る、活力溢れる業界づくりに努めます。

4. 労働環境（働き方改革）、安全

- ・適正な労働環境の確保と改善を実現する事により、働きがいのある業界を目指します。
- ・鉄構工業に携わる人々の安全と健康を確保するため、安全衛生対策の強化・充実を図ります。

5. 人権尊重（社会との共生）、反社会的勢力対応

- ・本協会は、人格と多様性を尊重し、社会との共生、地域社会に貢献する業界を目指します。
- ・反社会的勢力や団体とは一切の関係を持たず、不当な要求に対しては、断固たる態度で臨みます。

6. 実効性確保（周知・徹底）

- ・本協会の構成員各社は、協会理念を遵守し、協会の名誉・信頼を毀損する行為を行わない。
- ・本規範の実効性を確保するため、周知・徹底に努め、本規範に反する行為・事態が発生した場合は、迅速に原因究明と再発防止に努めます。

【全構協・青年部会】意見交換会アンケート一覧表

支部 番号	支部 名称	意見交換会アンケート		
		①意見交換会の感想	②全構協との連携活動についての意見・要望・提言	③今後の青年部会活動について
1	北海道 北見市	全体的に発言しやすい雰囲気だったので良かった。全構協の役員の方も、青年部の話に真剣に耳を傾けている姿勢が良かった。	青年部が全構協の組織に入っていない事の違和感はあるが、全構協の役員からの説明を聞いて理解できた。 青年部員は、最前線で仕事をされている方がほとんどだと思います。なので、仕事に支障のきたす専業や活動はあまりできないと思います。全構協と全青会が活動について連携をして、青年部で出来る事はすべきだと思います。	このような、全国規模の会議はとても大切だと思います。会議に出席することにより他の青年部の活動や考え方を知り、それぞれの地元を持ち帰り、青年部の成長していくと思います。 今年1回のこの会議を継続事業にしていきたいです。いつもジャーナルでしか見れない役員の方と会話ができるチャンスでもあるからです。
		人材不足のために各社いろいろな工夫しながら、まず業種に興味を持ってもらおうとしているのが良かった。今までと同じやり方では、人材確保できないとの意見も多く、これも時代の流れなのかなと思った。外国人への研修制度も踏まえていかなければならないかとも思った。	全構協としての活動予定を、なるべく早く教えていただき、それに沿った連携活動をしたいと思っています。	・人材確保のためのインターンシップ等の推進 ・各県での青年部内部での交流を深める(技術的・技能的に)
		第2回目の意見交換会で、昨年より交流を深めることが出来たと思います。今回は、各ブロック活動報告があり参考になりました。世代交代や今後の青年部活動の進むべき道を考える大変良い機会でした。意見交換会での内容を今後の県青年部、東北ブロック活動に活かしたいと思います。	今後とも業務に直結する研修会の企画、研修会に係る補助、支援を継続して頂きたいです。また資格講習、試験など可能であれば、地方開催をお願い致します。	各県の活動は活発に行われていると感じました。全青会でも、各ブロック活動への参加など活発に行われていると感じました。今回載った全構協・青年部会意見交換会資料等を参考にしながら、本県でも積極的な活動を引き続き進めていきたいと思っています。
4	宮城	昨年に比べて、青年部側の発言が多かったので、より活発な意見交換ができたのではないかと思います。	共同で取り組める事業活動について、的を絞って連携し、積極的に取り組んでいくべきかと思っています。	課題は山積みかと思いますが、優先順位を一つ一つ解決していければいいと思います。青年部らしく、自由な発想と、スピード感をもって行動していく必要があるのだと考えます。
5	秋田	全構協で行っている事業や活動を改めて知ることができ、また青年部に対しての思いも聞かせていただけてとても良い場となったと思います。	各都道府県の意見を聞かせていただきたきいろいろな考えや思いがあり勉強になりました。お互いが気持ちよく活動していくためにも全構協と連携を密にして行く必要があると思います。	各都道府県の活動状況等を含め今回の意見交換会で学ばせていただいたことを持ち帰り、今後の活動に生かしていきたいと思っています。今後とも今回のような会に参加できて本当に良かったと思っています。今後ともよろしくお願致します。
6	山形	全国から代表者が集まってくるのは良いと思う。しかし、自社の悩みや勉強不足を持ち込むような場では時間をもったいないかと思う。そのような話は雑談、各時でおこなって頂きたい。 進行に難があるかと思う。ただ聞くだけではメールでのアンケートなどで十分である。 当日、出席したからこそ出来る議論の内容で話が進めば、さらに良く聞きある内容になるのかと思う。	ファブは、大きな工場、設備、資格保有、労務リスクなど含め、多大な維持管理の中成り立っている業界である。当業界だからという部分に着目し、地位、資格の格上げ(国家資格など)が必要かと思っている。この事によって、少しは社員の定着率や有能な人材が育つのではないかなと思う。	全国各地から集まって出来ることに集中するのはいいかと思いますが、皆さんが集まるといふ事は、莫大な時間、費用が発生します。それらに見合った活動内容を見出していかなければならないかと思っています。 とりまとめが大変かと思いますが、PG、スマホ、FAXなどを含め、様々なツールがあります。そして手書きがあったりと統一感もありません。 もっと簡素化したシステム構築が必要かと思っています。
7	福島	さまざまな意見を聞くことができたことは勉強になった。さまざまな問題を解決しながら各社の企業を運営していかねばいけないが、各社知恵を出し合って生き残っていかなければいけないと痛感した。	業務の対応が忙しく、巨額の研修に考えられないのが実情です。企業の大きさやまちまちで、抱える問題も異なるので、足並みをそろえるむずかしい点はあります。また、人材確保の成功例を聞くなど、大変なことになるので、問題に対して自由に意見を言い合う機会は大変重要であると思います。答えはなくても、「こんなことあったよ」「こうしたいよ」というお話を伺えるだけでも十分です。自分が問題に直面した時、何のお話か問題を解決する糸口になるかと思っています。	人員が減っていく中で、親会との兼任者も多く、青年部を維持していくことも難しいと思います。意見を集約しようとするれば、会員(特に役員)に負担が多くなってしまふ。県単位での活動であれば、動きやすいと思うのですが、県のみならず様々な委員の意見も聞きたい。今回のようにあらかじめ意見をまとめたもので議論できれば有意義だとは思いますが、まとめる作業の負担は対応しきれないと思います。

【全構協・青年部会】意見交換会アンケート一覧表

支部	都道府県	意見交換会アンケート		
		①意見交換会の感想	②全構協との連携活動についての意見・要望・提言	③今後の青年部会活動について
8	京都府	雇用問題や休日出勤などの対策について、同じ悩みを抱える方が多く、全構協の先輩方の意見は非常に参考になった。 弊社はいわゆる地場コンで、鉄骨加工業は副業に近しいところがあり元請け側の立場と下請け側の立場の両方味わっておりますが、やはり建設部の部長と工場長は同じ部長職(社内等線は同等)にもかかわらず、鉄骨部のほうが立場が弱くあります。そこから見直さなくてはならないと思いました。	良いことを話しますが、茨城県では全構協の冠?名称?は特に必要ないと考えています。今まで全構協という事を前面に出してイベント開催をしたり、会場を借りたりしたことなどもなく、全構協と言っても一般の方は全く知らないとはいえます。なぜ他県の方々が全構協という名称を使いたいのか、全く理解できませんでした。私としては米森会長がお話された通り、青年部とは「全く別の組織」という認識が強かったので、なぜ意見交換会をするの?とも思っていました。青年部の活動に介入するのは良くないことと想っています。そして、なにより今回の意見交換会で残念だったことは「青年部が全構協の冠を使って何かあったら責任は全て全構協になってしまっから一度冠を外した」と会長が語られたことです。今まで私がお世話になった組織の先輩やトップの方は「責任は取ってやるから青年部にしか出来ないことをやって、失敗してたくさん恥をかけ!」と言われてきました。我々も子供ではなく大人です。会社のハンドルを握る者として責任が取れなくなるような悪いことはしません。もう少し我々を信じて自由にやらせるべきかと思ひますが。。。	③ 今後の青年部会活動について 会員の半分が親会にも出席しているメンバーです。正直、勉強会などしかやらないのであれば親会だけで充分です。労働者不足で女性雇用の機会も増えてきているからセクハラ問題を題材にした講習をしました。たまたま講師が元AV女優でしたが...講義中は誰一人居眠りすることなく楽しかったと参加者皆が言ってくれ、私に握手を求めてきた方も多かったです。企画した私は涙が出るほど本当に嬉しかったのですが、それが原因で全構協では色々波紋が広がってしまい進んでしまいがちで、今後下部組織で青年部が全構協の下部組織だと思わなかったです。今後下部組織ではないとおっしゃっていただいたので、これからは茨城県ではe-sportsやSNSなどは時代に合わせた講習などを開催し、我々経営者が親会の若者たちが何に興味をもってどんな休日生活を送っているかを知る機会や、親睦旅行などに開催し青年部に入ってきたかと思えるような活動に取り組もうと考えております。
9	栃木	前回(平成29年7月)時に比べ、各会長からの意見発表が出来たと思います。ただ、全国道路から参加しているのでマイクを渡し全会長から何か一言でも意見を述べる機会があったらと思います。		引き続き各県との交流会や計画行事を遂行する予定です。
10	群馬	今回の意見交換会、充実した内容だったと思います。また各県代表者が全員の意見できたこと、良かったと思います。	全構協に協力していくと共に、青年部活動を活発にしていきたいと思ひます。	今後、青年部活動に対し「何が必要か、やるべきことは何か」頭に置き青年部活動親会と連携していきたいと思ひます。
12	千葉	全構協との意見交換会は有意義な試みだとは思いますが、...全青会側で(各ブロックや県)として事前に会議する必要性があるように思ひます。各県・各ブロックの意見はバラバラなまま意見交換しても、有意義な意見交換にならない。		今回、全青会側からなんの説明もなく、ただ冠をかえして貰えると言っただけで、議論もない中で10分程度の決を取るだけの臨時総会でした。また、全構協側の組織には各県構成員という現状親会のみで、組織図には記載されないとのことなので、別組織でということが明確になりました。全青会側が何を考え今後どうしていくのかが見えてこないの、その辺を少し議論したほうが良いと思ひます。現状そういうことを議論する場は無いに等しい。
13	東京	東京の幹事長として会に参加させて頂くのは他県の活動を学ぶのに良い機会になっています。但し、半日の会議に交通費だけで300~400万は総費が掛かると思われますので、その分を全青会総会に廻しその際開催するのにも効果的ではないかと思ひました。全青会総会には各県青年部会長の次世代も集まっているので、オプザーバー席の設置で若手に体験させることも可能です。	私からは「鉄骨業界標準」として会員が利用できる「取引基本契約書」の策定を要望しました。その必要性を短い時間の中では十分に説明することが出来なかつたので、今後また改めて機会を頂きたいです。	広島大会の時に行った全青会の「ノズルチップ活動」での車椅子の寄付は、立派な社会貢献だったと微力ながら誇らしかつたです。業界の地位向上にも資すると思ひます。是非この活動を継続し、今後は災害に被災したアパへの義援金も開設して頂きたい。 全青会やブロックで培った仲間が、人材不足や納期不安定の中で仕事量の調整に無くてはならないものになっています。もし全青会が無かつたら今の仕事をこなせるかどうか分かりません。「交流」は程度の低い活動と評面する人も居ますが、商売敵が同じテーブルで酒を交わすのは少なくともそれだけでも十分な価値があると私は確信しています。
14	神奈川県	各ブロック・各県からそれぞれ様々な意見が出て、青年部の考えを全構協の方々に聞いていただけたのではないかと、大変意義のある会であつたと思ひます。	最後に村山副会長が仰つていたように、青年部は精一杯仕事に邁進し、それでも手に余る事に対しては全構協に助けを求めても良いのかなと思ひます。	青年部の中でこれからの鉄骨業界をより良いものにするために、何をどの様にしていけば良いのか、それぞれブロックや県単位で考え、動くことが何より一番大切であると思ひます。自分が再就職することを想定し、自分の会社に入りたいたいと思えるように各自努力をしなければいけません。自社の魅力をPRすることも忘れてはいけません。「モノづくり大国ニッポン」のために皆さん一丸となって頑張らしよう!!
15	新潟	意見交換会というよりも、全青会各県の活動報告をしているようだった。意見交換会の着地点はどこですか?	全構協との関係を今後会長として、どうしていきたいのか明確にしていくべきだと思います。	全構協と全青会の役割を明確にすることが大切だと思ひます。

【全構協・青年部会】意見交換会アンケート一覧表

支 部		意見交換会アンケート			支 部
県No	都道府県	①意見交換会の感想	②全構協との連携活動についての意見・要望・提言	③今後の青年部会活動について	
19	山梨県	今年度より青年部会長に就任したので今回が始めての参加になります。青年部を運営するにおいて他県の会長の話・考え方を聞いたのは貴重な機会となりました。各県より一回は発言の機会があったかと思われれます。ただ事前提出シートの内容を見ると各県でこの意見交換会に対する温度差を感じられたのも事実だと思います。全構協が各県青年部に対してサポート・支援していく考え方、全青会に対するスタンスが自分なりに判断出来たので当県としては来年度以降も意見交換会を全構協にに対して意見・要望が出来る機会と捉えて会員に説明を行いたいと考えています。	事前提出シートにおいて各県より全構協に対する意見・要望があったと思われれます。当日に意見交換が出来た内容もありましたが、一方通行にならない様、また来年度以降の参考の為にそれぞれ返答を畫面にて各県に送付していただけたら良いと思います。もちろん東京都松田会長の要望など出来る、出来ないの話も大前提だと思っておりますのでよろしくお願い致します。	意見交換会の内容、他県の事前提出シートの内容を確認して今後も当県で事業等に役立てるものがありますので参考にして運営していきたいと考えています。	関東
20	長野県	全国の代表者が一同集まって意見交換をするいい機会だと感じました。青年部会に特化したテーマでの意見交換会になればよいかと感じました。	全構協・青年部会の連携で考えればお互いの情報共有の仕組みを考えたいのがあるかと思っています。当日の内容のような青年部会が問題意識・全構協が答弁という形ではなくお互いの情報公開や意見を共有できるシステムになれば業界としての発展が見えてくると感じました。	各事業所の恵利や発展目的ではなく業界の発展を目指す活動をするべきだと思います。業界の発展による鉄鋼業の知名度や快適な労働環境、安定した単価などの地盤となり各事業所の人材確保や営利の安定化を促進させるのだと思います。	
16	富山県	全構協や各県会長の色々な意見(考え・思い)が聞けたのは、とても良かったと思います。貴重な経験をさせていただき、有難うございました。米森会長の『色々考え計画しています。期待して待っていてください。』との言葉が特に心に残っています。期待しておりますので、どうぞよろしくお願い致します。		今一度自分たちに出来ることを考えて、より有意義な活動ができるようにしていきたいです。	北陸
17	石川県	各テーマに対する意見交換、現在抱えている問題点やそれに列する解決策を聞くことができた。全構協の方々の考えを直接聞ける機会としても有意義であった。ただ人数が多すぎたため意見交換会としては少しの足りなさを感じた。	青年部会を下郡組織として考えていないとのことでしたので、今後どのような形で私達が事業に携わり活動していくか方向性を決める必要を感じた。どのような形であれば業界全体がさらに良い方向に進むよう努めていきたい。	県単位・ブロック単位では今後も様々な事業を通し、交流・意見交換の場としての活動を行ってきたい。	
18	福井県	各県やブロック単位で、さまざまな考えがあるため実感した。全国共通の課題を解決していくのは勿論だが、各県やブロック単位でのその土地柄に合う問題の対応も必要だと感じた。	やはり、業界の発展には全構協と全青会が一枚岩になって、いろんな事業や問題解決に連携していくことが重要である。また今後の業界の行く末は全青会のメンバーにかかっているという事を念頭に置いて活動していくことが重要である。	一部の青年部会長から、全構協に対して改善や要望が多く目立ったが、お願いはかりではないとまずまず青年部で先陣をきって活動することが重要だと考える。その上で、全構協とどのような連携が出来るかを考えていきたい。	中部
21	岐阜県	参加人数が多く意見を言えない人が見受けられた。良い事業だと思っておりますし、せっかくの意見交換会ですので午前と午後に分けるなど、全員が発言できる時間を作ってほしいです。	全構協と全青会が対話を重ねて、冠だけでなく、組織的にも予算的にも正統な親子関係に早く近づいてほしいと望んでいます。全青会のメンバーひとりひとりは、現在・未来の全構協を担うメンバーであり「そこに人材育成投資をしないで行く」と親会の人たちに感じてもらえるような業界青年部の情報発信源になってもらいたいです。(人や予算が少なくても情報発信ならできると思っています。)	全青会役員に対しては、将来全構協を担う一員として全構協に意見を言えるよう、普段から全構協役員と会話を重ねる努力や予算組をしてほしいと期待しています。	
22	静岡県	冠の件についての経緯、詳細のご説明が少なかつたように思いました。なかなか言い出せずにいたところ、岐阜県の会長さんが真意をつく質問をして頂き、「そこが知りたかった」と思いました。そして、説明を聞いた段階で納得致しました。	全構協と連携は県単位で協力してほしいと考えています。静岡県に聞けば、もう少し青年部との関係を密にして頂けたら嬉しく思います。	全構協(親会)と連携を取り、実践組(若い人材)しかできない事を見つけ、協力していきたいと思っています。又、青年部でも有意義な研修、懇親をして、横のつながりを大切にしていきたいと思っています。	

【全構協・青年部会】意見交換会アンケート一覧表

支 部		意見交換会アンケート			
県No	都道府県	①意見交換会の感想	②全構協との連携活動についての意見・要望・提言	③今後の青年部会活動について	
23	愛知県	・全構協の方々が青年部の意見に丁寧に回答してくれていたのが印象的でした。 ・働き方改革で皆様の意識が高く、土曜日休みの会社が多いのに驚きました。 ・青年部から全構協への意見が多かった印象がありました。個人的には人材育成委員会やビジョン検討委員会の内容や今後の動きなど聞きたかったです。	・人材育成委員会の今後に非常に関心を持ちました。 ・各会員にアンケートを実施し人材育成のためになるものを作り上げてほしいと思います。例として、ターゲットの経験年数はどのくらいか？図面、組立、溶接、検査、塗装など、どこが工程が人に教えるのが難しいのか？専門工と多能工のどちらが多いのか？ ・基本的にFAB業界の教科書？マニュアル？の絶対量が少ないと思います。各々の会社で独自に作成するものなのかも知れませんが。	意見交換会・懇親会では多くの仲間と全構協の皆様、各支部長とお話できました。 業界の発展に情熱を注ぎ、青年部に貴重なご意見や多くの激励の言葉を頂き、個人的な意見になりましたが愛知県では個々の経営力の向上、技術に関する勉強、人材育成に力を入れたと思います。 全青会では地域性や会社の規模などにより、仕事量も仕事のやり方も違い、青年部の方針や位置付けも違う中で折角集まっているのだから、問題解決型のディスカッションをするべきだと思います。 問題ひとつに対してもしっかりと色々な角度から意見も出るだろうし、問題解決に繋がる意見も多く出ると思うからです。	
24	三重県	意見交換の時間は和やかな雰囲気で行われていて、各県の考えや全構協での動きなども知ることができ、とても有意義な時間でした。	全構協側の担当されている方が、それぞれ意見に対して現在の動きなどを発言されていたので、難しいと思いますが、「各ブロックから誰か」という感じで話しているの、分科会などの形式を取られた方が時間内でより多くの意見が出るのではないかと感じました。	今回の内容や、新たな情報を得ましたので、自県に持ち帰り副会長長以下に伝えさせていただきます。 懇話との交流も今後多くなってくると思いますので、併せて活動できればと思っています。	
25	滋賀県	働き方改革において各FABさんの対応(完全週休二日制、仕事を断る勇氣)今後の対応を考える良い機会となった。	人材不足、若手社員の教育などはFAB全体の悩みだと思いますので、建築鉄骨専門の教育機関の開設が少しでも進んでいけば良いと思います。	県内FABでも人材不足、高齢化、若手の育成は問題視しているの、各社の対応などを共有していきたい。	
26	京都府	様々な意見があり、参考になりました。	出来る出来ないは置いておいて、なにかあれば意見や要望をぶつけてみるべきだと思います。(答えてもらえらると思うので)	人員確保の為に学校等へのアピール等してないので、青年部としてなにか考えたいと思います。	
27	大阪府	初回に参加させていただきましたが前回より柔らかい雰囲気、語ができたのではないのでしょうか。あまり回答そのものを全構協3役が応答するのはなく会場の参加者にも意見を募るようになってほしい。	対話は重要なので今後も若い世代の声を取り上げていく場を大事にしたいだけだと感じています。	懇話の方々にもっと興味をもってもらい意見も頂戴できるように青年部として成長を計ります。	
28	兵庫県	昨年と今年の2回出席させて頂きましたが、昨年の雰囲気と違い今年は、良い意見交換会になったかと思っています。もう少し余裕のある進行を考えてもらえればと思います。	業界のイメージアップと業務内容のアピール方法を全構協と全青会ともに協力していく体制づくりを進めて頂きたいです。2回の意見交換会を体験して思ったのは、全国の青年部会長が集まるのは費用面(交通費は別)にしても時間的にも大変な事であり、各ブロック単位での親会理事と青年部会長の意見交換会(主催は全構協)に全構協の三役及び理事の方に出席して頂くほうが、そのブロックの現状が分かり意見も出やすいかなとは思います。その意見交換会の内容を事務局でまとめて配信する形がいいのではないかと思います。	人材不足や鋼材の動向や高力ボルトの不足など、現場に出る機会が多い実務者の多い青年部会員での情報共有を密にしていきたい。イメージアップ等働きやすい職場環境づくりを部会内で討論します。	
29	奈良県	各都道府県、たくさんの意見が聞けて、大変勉強になりました。業界全体の問題でもある。人材不足に関して各社様々な取り組みを行っているのを感じ、とても参考になりました。	たくさんの意見を出し合い、話し合い、教えていただき、とても有意義で勉強になりました。 個人としても、会社としても成長できる会と感じました。	人材不足を解消したい。 業界全体のイメージアップでできる活動がしたい。	
30	和歌山県	意見交換会については非常に意義があるとは思いますが、せっかく全国から集まっても発言できる機会が少なく、多額の交通費の無駄遣いのように感じた。次回はある程度程度ブロックで意見をまとめ、各ブロックで人数を絞り、よりテーマと内容を濃くしたら良いのでは。	親会と青年部は別という旨の発言があったが、現状は青年部から親会に移行する流れになっている以上はより連携を取れる組織を作るべき。	青年部会の活動が活発になればそのまま親会に繋がるので、親会でも青年部活動の為に支援(人材不足の解消等)を各県単位で検討すべき。	
31	鳥取県	有意義な意見交換会であったと思います。同じ業者の考え方、悩みなどの情報を共有できたことは、良いことだと思います。	このような意見交換会を定期的に開催することを継続してほしい。直接顔をみて意見を出し合うことは、大切なことだと感じました。	親会と青年部会が意思の疎通をとりながら有意義な会にしてほしいです。	

【全構協・青年部会】意見交換会アンケート一覧表

支部	県No	都道府県	意見交換会アンケート		
			①意見交換会の感想	②全構協との連携活動についての意見・要望・提言	③今後の青年部会活動について
中国	32	島根県	我々の鉄骨業界は製造業に分類されているが、工期短縮やゼネコンの都合により立場の低い状態にあるように思える。機械メーカー、自動車メーカーなども同じ製造業であるが、両者は納期などに関し主導権を握っている。そのため、工場内の工程が管理しやすく、安定した休日、過度な残業をせずに営業することができている。これはある程度、発注者が理解していることと、会社の規模によるものだと考えられる。いろいろな規模の工場をもつ鉄骨業界は個別単位では客先に対して理解を求め、説明を行っていただきたい。大手ゼネコンや本社だけでなく県単位で活動するようをお願いしたい。	働き方改革のため、労働時間短縮に伴い生産性の低下が考えられるが、固定費削減とはならないため、今までもよりよく考えて見直しや設計見直しが必要である。そのために全構協主催による設計員に対する勉強会みたいなものを開催して若い世代の知識向上につながるようなことをしていただきたい。安定した単価維持のためにも、とても必要なことだと思う。	全構協主催の各行事に対して、青年部は積極的に参加し活動を盛り上げていく必要がある。そうすることにより業界全体の活性化につながっていくと思われる。今後もこのような意見交換ができる機会を与えていただければいい。青年部の方からもお願いをしていく必要がある。
	33	岡山県	様々な意見を聞く事ができ、今後の参考にになりました。	今後とも仲良くするのが一番かと思っています。	青年部の新規勧誘を積極的にを行い、親睦を深めていきたいと思っています。
	34	広島県	全国から同世代のメンバーが集い、意見交換できる場があることに感謝する。また全構協幹部と意見交換できる場は有意義な時間だと思う。青年部会員といっても全構協の構成員なので、大変うれしく思います。	各県単位での活動になると思うが、全構協から示された活動などが、親組合と連携して青年部活動となり、青年部世代の活発な意見交換できることが望ましい。	青年部会の活動の基本は、各県単位での活動と考える。全構協からの統一事業方針などを受けて、各県の親組合と青年部会が意見交換しながら活動していけると、将来につながる活動ができると思う。特に業界の現状は人材不足・後継者不足が見受けられるので、人材確保事業の推進を全構協・親組合・青年部会の共通テーマとして取り組んでいければうれしい。
	35	山口県	全構協は業界のために大変多くのことに取り組んでいいることがよく分かった。また、全構協と全青協の関係についても、全青協が活動しやすいようにいろいろ配慮していただいていることもよく分かった。全構協と全青協の連携は無くなったと思う。大変有意義な会だった。	連携活動になるかどうかは分からないが、業界のPRに力を入れるということ、週刊少年ジャンプのような雑誌で連載しているような、有名な漫画家にマンガを描いてもらい、短時間で描いた有名な雑誌で連載出来れば大変良いと思う。(面白ければもちろん新人でも良い。)面白ければ結構ある様に思うので。また、私自身もマンガから興味を持った事は沢山あるので、もし、そういったことが出来れば、教育工事に興味を持つ人は確実に増えると思う。	全構協で企画していただいた事業は、出来るだけ参加させていただくことを、山口県青年部の方々にも呼びかけたい。そして、今後に生かしたい。
四国	36	徳島県	初めての参加でしたが、自分だけでなく、各都道府県の皆さんが同じような悩み、問題を抱えているのだなと思いました。自分なりの働き方改革を考えて行こうと思います。	今後、こういった意見交換会のような話し合いの場があればと思います。	人材確保、人材育成についてもっと青年部で勉強していきたいと思っています。
	37	香川県	全構協の幹部の方々、他県の青年部部長の方々の意見を聞き、とても参考になりました。香川県青年部の活動に活かしたいと思っています。今後も意見交換会を開催して頂きたいです。	現状のままで良いと思います。	各県の『現在及び今後の、県単位での青年部としての活動状況』『今後の人材確保と人材育成・教育について』の意見を参考に活動内容を考えていきたいと思っています。
	38	愛媛県	各県の会長さんに会えるのは全国大会以外、意見交換会だけなのでこのような機会を与えてくれてありがとうございます。	業界の人材確保と人材育成若年層へのPR活動の強化をしていけたらと思います。	講習会や勉強会を積極的にやりたい。
	39	高知県	青年部だけの話し合いとは、また違った意見が聞けることができ、大変勉強になりました。	業界全体のPR活動等を引き続きお願いいたします。	他県との交流、スキルアップの為に勉強会を実施します。
九州	40	福岡県	各県のいろいろな意見が聞け大変よかったです。但しもう少し議論する時間が欲しかったと思います。また全員に発言の機会があればなお良いとおもいました。		当日議論された内容また事前アンケートの内容を参考に福岡の青年部の活動事業の参考にしたいと思っています。

【全構協・青年部会】意見交換会アンケート一覧表

支部	県No	都道府県	意見交換会アンケート		
			①意見交換会の感想	②全構協との連携活動についての意見・要望・提言	③今後の青年部会活動について
41	佐賀	都道府県	まずは、遅刻したことをお詫言いたいです。申し訳ありませんでした。感想としては、全国の方々のいろいろな貴重な意見を拝聴できまして、大変貴重な経験ができてよかったと思います。特に、今後の課題である「働き方改革」における残業や休日と工期や納期の兼ね合いの話は、興味深く聞かせて頂きました。	特にありませんが、全国各地のいろいろな意見を聞くことができるこのような会議、ディスカッションは定期的にあるといいと思います。	今回の議題でもあった人材育成、人材育成と働き方改革について、もう少し踏み込んだ事業ができないか、県に持ち帰り検討したいです。
42	長崎		全国大会以外で全国の会長が一同に顔を合わせ、意見を交わし合うというのはなかなか機会が無いので、とても貴重であり、たいへん良いことだと感じました。こういう機会を与えてくださったことを感謝したいと思います。また、全国の意見をなるべく取り上げてくださるような進捗で良かったと思います。しかし、各県いろいろな課題、提案、要望があると思うので、まずはその意見を等し精査して、その時期、景気、社会情勢に応じた問題を提示し、それについての意見交換や議論をしない、と、限られた時間の中で具体性を持たせた話にはたどり着かないのかなとも思いました。	意見交換だけでも参考にはなるものの、実際に連携活動となるとなかなか難しいことですが、その意見や議論を生かすための具体性を持たせた話まではたどり着いて、いつ、どこで、何をといったような、ぼんやりとしたものにし、具現化出来ればと思います。その上で改めて、全国の会員の皆さんがより多く求める課題をいくつか取り上げ、それについて議論を突き詰め、全構協の力を借り、方向性を見据え、情報を共有し、協力し連携して活動できれば、良い結果が生まれてくるのではないかと思います。望むものが共有出来ない協調性が生まれてこないもので、できる限り多くを求めるもので連携活動に取り組みればと思います。	親会へのホウレンソウ報告・連絡・相談をもとに、会員の皆さんが求める事業や活動を活動に持っていきたいと思います。
43	熊本		他県青年部の方々と仕事等についての思いや、考えを聞くことができ大変参考になった。		今回の意見交換会に参加して聞かせてもらったことを部会員に伝えて、意見交換をしなから、今後につなげていきたい。
44	大分		事前に提出しているアンケートの活用がもう少しスムーズに進めばよかったかなと思います。出席者全員の発言は時間的に厳しいので、各ブロックを代表しての発言者をあらかじめ会議の前に指名できれば、時間のロスがなくていいと思います。	冠の使用が認められて全青会にとっても良かったと思います。鉄骨業界の発展のためにお互いに協力していくべきだと思います。	ほぼ全県の青年部会長が出席されていて全青会の会長会議のようでした。今後は双方の意思疎通のために2年に一度ぐらいの意見交換会の開催を希望します。
45	宮崎		全国の方のいろいろな意見が聞けていい時間でした。求人の方、仕事の仕方など聞けてよかったです。	全構協が現状どのような事業を計画し、考えているのかを、文章などでお願ひしたいです。	各地域や各都道府県の報告などを見てもらい、年度ごとに事業活動の取り組み方を指示してはどうですか。
46	鹿児島		前回とは異なり、アンケートの内容について十分に意見交換できました。他社の人材への取り組みや対応、仕事受注に関する意見なども参考にになりました。	臨時総会を経て、再度冠を使わせていただけたこととなり、すっきりと活動も再開できると思います。ほとんどの地域、会員から意見が聞けたのが良かったです。	再スタートです！皆さん地域は違いますが、抱えている問題は同じだと思います。共に頑張りましょう。
47	沖縄		率直な意見交換がおこなわれ、とても有意義だったと思います。今後の人材確保の為、今から動かないといけないと改めて感じました。採用者が人を選ぶ時代ではなく、いかにして良い人材を振り向かせることができるか、そこも考えないといけないかと痛感しました。	全構協との連携は今後取りやすくなると思います。官公庁への陳情や、イベントなど積極的に取り組み、盛り上げていきたいと思っています。	冠を使わせていただくということで、今後は連携を取ながら鉄構工業会を盛り上げていけるように全青会(各ブロック、各県、各員)とも連携をとっていきます。
全青会(会長) 中原 稔			今回初めて意見交換会に参加させて頂いて、各県の会長・会員が、どんなことに悩み、業界をどのようにしたいのか、が良く理解できました。このように機会を毎年与えていただけたらと、ここからの業界の悩みを全都道府県で改善していけるツールとなる気がします。	全構協の活動はトップダウン形式で、技術の向上・品質の統一化が図られ、これからの業界運営が理事会を経て会員へ伝えられ、各社の判断により参加し、また技術の取得に向けて行くと感じます。全構協との意見交換会は業務に常時している管理者の生の悩みや、声を聞ける良い機会だと思います。今後は各都道府県会長・ブロック長・全青会と合同で話が出来る場を提供して頂けると、これからの業界の繁栄に結びつくと思います。	各都道府県の活動は素晴らしいものだと感じます。あとは、どれだけ参加人数が増やせるのか、青年部会員以外の従業員(管理者含む)等が参加できる活動、人材不足の改善のため対外に目を向け、工業高校や専門学校・大学とコラボレーションするなど、長いスパンで活動できる事業を目指して欲しいです。

そ の 他 の 事 項

構成員登録・取消社数累計表

登録・取消承認日	全構協受付締切日	登録社数	取消社数	合計社数
平成30年3月31日現在 (平成29年度増減数)		56	27	2,201
平成30年5月22日 第1回理事会	3月31日	(0)	(7)	2,201
平成30年6月8日 第2回理事会	6月1日	13	3	2,211
平成30年6月8日 第3回理事会	—	—	—	—
平成30年7月12日 第4回理事会	7月5日	4	3	2,212
平成30年9月20日 第5回理事会	9月13日	4	6	2,210
平成30年11月15日 第6回理事会	11月8日	6	2	2,214
累 計		27	14	2,214

《グレード別内訳》

S : 5 H : 248 M : 827 R : 604 J : 53 未 : 477 合計 : 2,214

登録構成員増減及び取消理由別社数一覧表

平成30年11月8日現在

区分	登録・取消 承認	増 減								増減差	増 減 後 構 成 員 数
		登録 社数	取消社数								
			倒産	転・廃業	縮小	工場閉鎖	休業	その他	合計		
平成10年度合計		67	21	48	26	11	11	94	211	-144	3,959
平成11年度合計		46	63	76	32	18	4	86	279	-233	3,726
平成12年度合計		22	48	52	31	11	5	83	230	-208	3,518
平成13年度合計		22	48	59	37	10	8	117	279	-257	3,261
平成14年度合計		40	67	37	45	21	4	110	284	-244	3,017
平成15年度合計		33	38	28	38	4	9	84	201	-168	2,849
平成16年度合計		65	13	22	18	2	1	45	101	-36	2,813
平成17年度合計		35	15	16	14	2	3	28	78	-43	2,770
平成18年度合計		49	8	15	19	6	3	29	80	-31	2,739
平成19年度合計		51	13	19	20	6	1	20	79	-28	2,711
平成20年度合計		49	17	17	29	0	4	41	108	-59	2,652
平成21年度合計		37	11	47	34	3	6	50	151	-114	2,538
平成22年度合計		23	31	39	33	4	7	52	166	-143	2,395
平成23年度合計		14	13	45	20	3	3	65	149	-135	2,260
平成24年度合計		20	9	15	19	2	0	35	80	-60	2,200
平成25年度合計		13	5	5	13	2	2	15	42	-29	2,171
平成26年度合計		26	2	6	10	0	0	21	39	-13	2,158
平成27年度合計		36	0	5	9	0	0	11	25	11	2,169
平成28年度合計		36	1	6	9	1	0	16	33	3	2,172
平成29年度合計		56	0	9	7	0	0	11	27	29	2,201
平成 30 年度	第 2 回 (6月1日)	13	1	0	0	0	0	2	3	10	2,211
	第 3 回 (月 日)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第 4 回 (7月5日)	4	1	0	0	0	0	2	3	1	2,212
	第 5 回 (9月13日)	4	0	2	1	0	1	2	6	-2	2,210
	第 6 回 (11月8日)	6	0	0	1	0	0	1	2	4	2,214
	第 7 回 (月 日)										
	第 8 回 (月 日)										
	第 9 回 (月 日)										
	年度末処理										
30年度計		27	2	2	2	0	1	7	14	13	2,214
累 計		972	499	648	511	124	79	1,118	2,979	-2,007	2,214

1. 転・廃業内訳	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
転業	1社	3社	0社	0社	0社
廃業	5社	2社	6社	9社	2社

2. グレード別取消内訳	S	H	M	R	J	未	合計
平成26年度	0	2	6	8	0	23	39
平成27年度	1	1	3	6	0	14	25
平成28年度	0	2	1	8	0	22	33
平成29年度	0	1	4	4	1	17	27
平成30年度	0	1	1	6	0	6	14

構成員登録社数・増減一覧表

(30. 9. 14~30. 11. 8)

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回
近畿	滋賀	32			0	32
	京都	49			0	49
	大阪	116	1		1	117
	兵庫	74			0	74
	奈良	39			0	39
中国	和歌山	38			0	38
	鳥取	14			0	14
	島根	24			0	24
	岡山	35			0	35
	広島	74			0	74
四国	山口	41			0	41
	徳島	26			0	26
	香川	47			0	47
	愛媛	40			0	40
	高知	22			0	22
九州	福岡	52	2		2	54
	佐賀	24			0	24
	長崎	19			0	19
	熊本	23			0	23
	大分	20			0	20
合 計	宮崎	23			0	23
	鹿児島	31			0	31
	沖縄	13			0	13
		2210	6	2	4	2214

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回
北海道	北海道	73			0	73
	青森	39		1	-1	38
	岩手	30			0	30
	宮城	41			0	41
	秋田	23			0	23
関東	山形	25			0	25
	福島	62			0	62
	茨城	61			0	61
	栃木	51	1		1	52
	群馬	65			0	65
北陸	埼玉	53			0	53
	千葉	56			0	56
	東京	48			0	48
	神奈川	38			0	38
	新潟	91			0	91
北陸	山梨	31			0	31
	長野	66			0	66
	富山	39			0	39
	石川	32			0	32
	福井	38	1		1	39
中部	岐阜	71			0	71
	静岡	95	1		1	96
	愛知	143		1	-1	142
	三重	63			0	63

(6 社)

37

構成員登録取消企業一覽表

平成30年11月8日現在
平成30年11月15日決定

(2 社)

[illegible]

建築着工面積と鉄骨推定所要量推移

(国土交通省建築着工統計速報による)

平成30年11月2日作成

年度	月	全建築物		鉄骨造		鉄骨鉄筋造		鉄骨推定重量計	
		面積	前年同期比	面積	前年同期比	面積	前年同期比	トン数	前年同期比
平成10年度計		193,353	87.7	69,856	84.2	15,778	80.6	7,774,450	83.8
平成11年度計		197,017	101.9	68,108	97.5	17,361	110.0	7,678,750	98.8
平成12年度計		194,481	98.7	70,808	104.0	15,305	88.2	7,846,050	102.2
平成13年度計		178,903	91.9	63,529	89.7	13,056	85.3	7,006,500	89.2
平成14年度計		171,031	95.6	61,468	96.8	10,958	83.9	6,694,700	95.5
平成15年度計		176,531	103.2	64,378	104.7	9,402	85.8	6,907,900	103.2
平成16年度計		182,774	103.5	69,927	108.6	6,834	72.7	7,334,400	106.2
平成17年度計		185,648	101.6	69,338	99.2	5,468	80.0	7,207,200	98.3
平成18年度計		187,611	101.1	70,187	101.2	6,317	115.5	7,334,550	101.8
平成19年度計		157,219	83.8	61,466	87.6	5,443	86.2	6,418,750	87.5
平成20年度計		151,394	96.3	56,639	92.1	4,604	84.6	5,894,100	91.8
平成21年度計		113,196	74.8	37,589	66.4	2,937	63.8	3,905,750	66.3
平成22年度計		122,281	108.0	40,478	107.7	2,731	93.0	4,184,350	107.1
平成23年度計		127,294	104.1	41,792	103.2	2,610	95.6	4,309,700	103.0
平成24年度計		135,452	106.4	46,257	110.7	2,677	102.6	4,759,550	110.4
平成25年度計		148,461	109.6	52,350	113.2	3,466	129.5	5,408,300	113.6
平成26年度計		130,791	88.1	48,554	92.7	3,019	87.1	5,006,350	92.6
平成27年度計		129,605	99.1	48,304	99.5	2,909	96.4	4,975,850	99.4
平成28年度計		134,236	103.6	49,957	103.4	2,171	74.6	5,104,250	102.6
平成29年度	4月	11,874	109.5	4,352	122.3	194	93.3	444,900	121.5
	5月	11,219	93.4	4,356	93.2	176	44.3	444,400	91.2
	6月	12,357	102.6	4,795	105.2	188	98.4	488,900	105.1
	7月	11,571	104.5	4,341	111.0	216	248.3	444,900	112.5
	8月	11,473	96.6	4,595	92.8	196	408.3	469,300	94.3
	9月	11,651	99.0	4,409	100.2	176	97.8	449,700	100.2
	10月	11,600	101.9	4,103	102.1	246	215.8	422,600	103.7
	11月	11,591	102.3	4,527	109.0	258	396.9	465,600	111.2
	12月	10,151	94.6	3,652	89.6	127	73.0	371,550	89.3
	1月	9,468	85.5	3,960	92.8	118	92.2	401,900	92.8
	2月	10,083	97.5	3,695	92.4	681	144.9	403,550	95.3
	3月	9,990	102.1	3,916	115.4	212	194.5	402,200	116.7
年度計		133,028	99.1	50,701	101.5	2,788	128.4	5,209,500	102.1
平成30年度	4月	11,733	98.8	4,323	99.3	133	68.6	438,950	98.7
	5月	10,912	97.3	4,275	98.1	164	93.2	435,700	98.0
	6月	11,350	91.9	4,712	98.3	36	19.1	473,000	96.7
	7月	11,869	102.6	4,724	108.8	260	120.4	485,400	109.1
	8月	10,906	95.1	4,385	95.4	30	15.3	440,000	93.8
	9月	11,160	95.8	4,253	96.5	118	67.0	431,200	95.9
	10月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	11月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	12月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	1月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	2月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	3月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
年度計		67,930	96.8	26,672	99.3	741	64.7	2,704,250	98.6

(単位) 面積 1,000㎡
前年同期比 %(注) 鉄骨推定所要量
鉄骨造 ㎡×100kg
鉄骨鉄筋造 ㎡×50kg

平成30年度主要会議日程表

H30.11.15 現在

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6
5	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12
6	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19
7	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26
8	28	29	30	31				28	29	30	31		
9	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6
10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13
11	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20
12	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27
13	29	30						29	30				
14	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11
15	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18
16	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25
17	27	28	29	30	31			27	28	29	30	31	
18	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9
19	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16
20	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23
21	25	26	27	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30
22													
23													
24													

□ ↓ 夏期・年末年始休日
 ■ ↓ 土・日・祝日
 ◇ ↓ 休日出勤
 ○ ↓ 振替休日

開催年月日	時間	三役会	理事会	総会	全国理事会長 事務局長会議	委員会	その他	備考
平成 30 年								
4 月 4 日 水	11:00 ~ 17:00	11:00						
4 月 6 日 金	15:00 ~ 19:00				15:00 ※			※事務局局長会議(金沢)
5 月 9 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
5 月 22 日 火	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00 ※					※総会招集決議
6 月 8 日 金	10:00 ~ 18:30	10:00	11:30	15:00				14:00全統評価株主総会
6 月 15 日 金	14:00 ~ 17:00				14:00 運営/技術			
7 月 4 日 水	12:00 ~ 19:30	12:00						
7 月 12 日 木	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00					16:00 三役・青年部会長等懇談 新理事会初回
7 月 13 日 金	9:30 ~ 12:00				9:30 特別			
8 月 29 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
8 月 30 日 木	11:30 ~ 15:00							11:30 鉄骨審議会
9 月 11 日 火	14:00 ~ 17:00	14:00						
9 月 20 日 木	10:00 ~ 17:00	10:00	12:00					15:00 賛助会員懇談会 9:30 特別 青年部会各所属会長意見交換会
9 月 21 日 金	9:30 ~ 12:00							
10 月 10 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
11 月 7 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
11 月 15 日 木	10:30 ~ 19:00	10:30	14:00					17:30 懇親会
11 月 16 日 金	9:30 ~ 12:00							
12 月 14 日 金	14:00 ~ 19:30	14:00						
1 月 18 日 金	9:30 ~ 18:00	9:30	12:00		15:00 ※			18:00 事務局職員との懇親会 ※全国理事長会
2 月 13 日 水	12:00 ~ 15:00	12:00						16:30 賛詞交歓会
2 月 21 日 木	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00					
2 月 22 日 金	9:30 ~ 12:00							
3 月 13 日 水	14:30 ~ 17:00	14:30						
3 月 19 日 火	15:00 ~ 17:00	15:00						
3 月 20 日 水	10:00 ~ 17:00		10:00			13:00 特別		
平成 31 年								

開催団体	開催年月日	時間	備考
【青年部会】			
総会・全国大会	平成30年4月21日(土) 広島		
総会・全国大会	平成31年4月20日(土) 名古屋		
【その他】			
平成31年度予定			
三役会(12:00) 全国事務局局長会議(15:00) 懇親会(16:30)	平成31年4月5日(金)		
三役会(14:00)	平成31年5月10日(金)		
三役会(10:30) 理事会(14:00)	平成31年5月21日(火)		
三役会(9:00) 理事会(11:30) 総会(15:00) 懇親会(17:00)	平成31年6月7日(金)		
参考: 全統評価株主総会(14:00)			

北海道支部(鉄骨部会) 状況報告書 (平成 30 年 9 月)

作成日 平成 30 年 10 月 10 日

(A)

支部名	①鉄骨部会各支部の活動状況	②鉄骨部会活動状況
道 央	・ 9/4 三役会、役員会	・ 10/16 「鉄骨製作工場の基準マニュアル集（改訂版）勉強会」開催予定 ・ 10/17 「第 4 回役員会」・「北海道支部共催推進会議」開催予定
函 館		
室 苦 小 樽		
旭 川	・ 担当者会議（第 2 月曜日）	
北 見	・ 月例会議 ・ 9/19 3 地区会議（北見開催）	
帯 広	・ 月例会 ・ 9/19 3 地区会議（北見開催）	
釧 路	・ 9/17 3 地区会議（北見開催）	

(B)

支部名	① 手持ち工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③ 見積物件数			④ 受注価格(千円)建方込・別		
	H	M	R・J・未		多い	同じ	少ない	S 造(込)	コラム(込)	SRC(別)
道 央	5~9	2~5	1~5	90~110	3	22	6	220~350	220~350	
函 館	7	6	2~3	100	5	3	0	240~300	240~300	
室 苦 小 樽	3~4 以上	1~4	2~4 以上	100~120 以上	5	6	0	200~340	220~340	
旭 川	7~8	4~5		120	0	0	7	250~270	260~270	
北 見		4 以上		110	0	3	0	250~340	250~340	
帯 広	3~5	2~5 以上	2~3	100~120	0	7	2	230~320	230~320	375~390
釧 路	7	3~10	12	100~110	1	3	1	250~330	250~360	

(C)

支 部 名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界に提案
道 央	- 各社の山積状況：H グレードは年内から来夏まで山積みが高い。M グレードも概ね年内は山積みが高い。RJ 未グレードも良好。 - 各社とも山積み調整に苦慮。また図面の決まりの悪さの他、鋼材に加えてボルトも入手困難で苦慮している。 - 共同積算：1-9 月 102,311 t、平年比 95%、前年比 73%	
函 館	- 各会員共、変わらず工場稼働率は高く推移。山積みは、9 月に入り年明け着手の物件が決まり、多いところで来年 4 月位迄、他会員もおおよそ年内は確保した模様。 - 鋼材、副資材の入手難により、工程に影響が出始めている。 - ここにきて見積り（来年着手予定）が増加傾向。受注価格は大きく変わりなし。	
室 苦 小 樽	- 工場によっては許容量を超えてしまっているため、会員同士で手助けしながら製作を進めている状況にある。 - 相変わらず図面承認が遅れており、製作工程が掴めない状況が続いている。	
旭 川	・ 見積りが少し止まっている感がある。	
北 見	- 各社ともにフル稼働状態。設計承認、工程等のずれで、工場は山積み状態となっている。 - 来年への持ち越し物件が数件発生している。	
帯 広	・ 手持ち物件は、各社共フル稼働状態継続中。HTB の確保は更に厳しい状況となっている。	
釧 路	・ 各社共多忙なうえに農業物件が本格化してきたため、対応に苦慮している状況。	

北海道支部(鉄骨部会)状況報告書 (平成 30 年 10 月)

作成日 平成 30 年 11 月 7 日

(A)

支部名	①鉄骨部会各支部の活動状況	②鉄骨部会活動状況
道 央	・ 10/2 三役会、役員会 ・ 10/16 例会、基準マニュアル集勉強会	・ 10/16 「鉄骨製作工場の基準マニュアル集（改訂版）勉強会」（道央支部との共催） ・ 10/17 「第 4 回役員会」・「北海道支部共催推進会議」
函 館	・ 10/27 パークゴルフ、懇親会	
室 苦 小 樽		
旭 川	・ 担当者的会議（第 2 月曜日）	
北 見	・ 月例会議	
帯 広	・ 月例会	
釧 路	・ 10/30 例会	

(B)

支部名	① 手持ち工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③ 見積物件数			④ 受注価格(千円)建方込・別		
	H	M	R・J・未		多い	同じ	少ない	S 造(込)	コラム(込)	SRC(別)
道 央	5～9	2～5	1～5	90～120	3	16	11	220～300	220～300	320
函 館	6	5	2～3	100	4	4	0	240～300	240～300	
室 苦 小 樽	3～4 以上	1～4 以上	2～3	100～110	3	8	0	200～340	220～340	
旭 川	7～8	3～4		120	0	0	7	250～270	260～280	
北 見		4 以上		110	0	3	0	250～340	250～340	
帯 広	3～5	1～5 以上	1～2	100～120	0	6	3	230～300	230～320	375～390
釧 路	7	3～7	12	100～120	2	2	1	250～330	250～360	

(C)

支 部 名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界に提案
道 央	・ 各社の山積状況：H グレードは年内から来夏まで山積みが高い。M グレードも概ね年内は山積みが高い。RJ 未グレードも良好。各社とも山積み調整に苦慮。 ・ 図面の決まりの悪さの他、鋼材やボルトの入手が困難で苦慮している。 ・ 共同積算：1-10 月 111,163 t、平年比 96%、前年比 69%	
函 館	・ 工場稼働率、山積み共に先月と変わりなし。 ・ 見積りは例年並み、受注価格も大きく変わりなし。	
室 苦 小 樽	・ 各工場共に、年内は埋まっている状況。 ・ 相変わらず図面承認の遅延により、製作工程が掴めない状況も続いている。	
旭 川	・ 8、9 月と変わらず、見積りが止まっている状況。	
北 見	・ 各社ともにフル稼働状態。設計承認、工程等のずれで、工場は山積み状態となっている。	
帯 広	・ 高稼働は継続しているが、一部では落ち着いてきている状況。	
釧 路	・ 各社共、多忙が継続中。	

<東 北>支部 平成 30 年 9 月期状況報告

提出日 平成 30 年 10 月 2 日

(A)

① 全構協推進事業の現況		② 支部の活動状況
県 名	現 況 要 旨	活 動 要 旨
青森県	◇9/11 積算業務担当者会議	◇9/13～14 2018 秋期 NDI・UT 対策学科講習会（多賀城） ◇9/28 東北支部共済推進会議・東北 6 県事務局会議（仙台）
岩手県	◇9/12 県南支部会 ◇9/18 盛岡支部会	
宮城県	◇9/12 青年部会工場見学会・懇親会 ◇9/14 鉄骨管理技術者受験対策講習会 ◇9/25 役員会 ◇9/27 営業担当者会議	
秋田県	◇9/13.14 鉄骨製作管理技術者講習会 ◇9/19 営業担当者会議	
山形県	◇9/7 超音波探傷技術研究会 役員会 ◇9/19 青年部役員会及び溶接材料・ガス関連の研修会 ◇9/21～22 「鉄骨製作管理技術者」受験準備講習会	
福島県	◇9/12 第 3 回理事会 ◇9/12 技術・品質サポート(1 社)	
	◇9/20 第 5 回青年部役員会	

(B)

①手持工事量		②稼働率	③見積件数			④受注価格（単位：千円、SRC は建方別）		
県 名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	⑤工場加工費（図面、原寸、塗装含みの工場オントラックまで）		
青森県	1～12 ヶ月	90～120%			○	S 造	SRC	コラム
						210～240		200～240
岩手県	1～8 ヶ月	90～120%			○	60～80		60～85
						170～240		170～240
宮城県	1～7 ヶ月	100～120%			○	60～120		60～120
						220～260		210～250
秋田県	1～6 ヶ月	100～120%		○		65～90		65～100
						～		220～220
山形県	1～6 ヶ月	90～110%		○		70～80		60～80
						200～250		200～250
福島県	1～9 ヶ月	80～150%		○		65～100		65～100
						200～280		180～280
						60～120		55～120

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策（意見～提案）	
県 名	見 通 し	県 名	意見～提案
青森県	工場平均稼働率は、3 ヶ月連続 100%超えとなった。一方で、見積依頼物件数は大幅に減少。また、鋼材入手難の状況が続いており、工場の半数以上が苦慮している。	青森県	
岩手県	工場稼働率、手持工事量、受注価格、加工費はいずれも横ばい。各社への見積依頼数が過去最低を更新。鋼材・資材の入手難に加えて製品輸送トラックの確保難の声も聞かれ始めている。	岩手県	
宮城県	今月の県内見積依頼物件数は少ない。材料全ての納期が不透明なため、要注意が必要である。	宮城県	
秋田県	手持ち工事量・稼働率に大きな変動はないが受注単価は相変わらず厳しく先行き不安。	秋田県	
山形県	県内見積物件数は前月と同数だが、殆どが広域物件で 4 件もあった。景気の動向は現状のまま回答が多い。	山形県	
福島県	工場平均稼働率、手持ち工事量共に先月より若干増加し、高水準で推移。鋼材の入手困難な状況が続いており先行き不透明。	福島県	

＜東 北＞支部 平成 30 年 10 月期状況報告

提出日 平成 30 年 11 月 2 日

(A)

① 全構協推進事業の現況		② 支部の活動状況
県 名	現 況 要 旨	活 動 要 旨
青森県	◇10/3 役員会・懇親会（@十和田市） ◇10/4 会員親睦ゴルフ大会 ◇10/19 積算業務担当者会議	◇9/16 10 月期役員会（仙台）
岩手県	◇10/2 性能評価申請書記入説明会 ◇10/11 県南支部会 ◇10/23 盛岡支部会	
宮城県	◇10/10 工場審査（1 社） ◇10/30 ローパル工法施工管理者認定講習会	
秋田県	◇10/23 営業担当者会議 ◇10/29 役員会 代表者会議	
山形県		
福島県	◇10/1 技術・品質サポート(1 社) ◇10/10 工場審査（1 社） ◇10/19 青年部栃木県との交流会 ◇10/23 第 3 回営業責任者会議	

(B)

①手持工事量		②稼働率	③見積件数			④受注価格（単位：千円、SRC は建方別）		
県 名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	⑤工場加工費（図面、原寸、塗装含みの工場オントラックまで）		
						S 造	SRC	コラム
青森県	1～11 ヶ月	90～120%		○		210～240		190～240
						60～85	75	60～85
岩手県	1～8 ヶ月	100～120%		○		170～250		170～250
						60～120		60～120
宮城県	1～13 ヶ月	90～130%		○		210～260		210～250
						70～80		60～100
秋田県	2～7 ヶ月	90～120%		○		220～220		220～230
						60～80		60～80
山形県	1～7 ヶ月	90～100%		○		210～250		210～250
						65～100		65～100
福島県	1～8 ヶ月	80～150%		○		210～280		220～300
						60～120		60～150

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策（意見～提案）	
県 名	見 通 し	県 名	意見～提案
青森県	工場平均稼働率は、引続き 100% 超えとなったが、見積依頼物件数は未だ低調に推移している。また、鋼材入手困難な工場が前月より増加した。	青森県	
岩手県	手持工事量、受注価格、加工費は横ばい。工場稼働率が平均で 100% を超え、見積依頼数は若干回復。鋼材・資材の入手難が継続する中、現場鍛冶・嵩・トラック等の不足も顕著。	岩手県	
宮城県	手持工事量、稼働率は高い水準を維持している。鋼材の入手状況が悪く先行き不透明。	宮城県	
秋田県	稼働率・価格に変化は見られないが、年末に向け見積物件数が減少し先行き不安である。	秋田県	
山形県	前月同様物件数は少ない。鋼材の入手難が続く先が読めず厳しい状況である。	山形県	
福島県	稼働率は高水準。材料、高力ボルトの確保に苦慮している様子。復興需要が確実に終わり、地元元請の M&A もあり、先行き不透明。	福島県	

関東支部【状況報告書】										
(平成30年9月分)										
提出日 平成30年11月5日										
(A)										
都県名	① 各県組合の活動状況							② 支部の活動状況 (要旨)		
東京	7日～10日関東H協台湾視察、20日関東支部運営委員会、25日M会、理事会							1. 支部 会議 開催状況 9/20関東支部運営委員会 開催		
千葉	9/1340周年編集委員会9/20関東支部運営委員会9/27三役・支部長会議、理事会9/28全国R・J部会役員会									
神奈川	9月3日技術懇談会開催。9月12日Mグレード部会、RJNグレード部会研修会を開催。									
茨城	1,2,8,9日UT学科講習会、3日建産連意見交換会、6日県知事えっしゅ会、7日JASS6改定勉強会、22日ボーリング大会、29日JIS溶接検定試験その他、実習生事業（帰国サポート・監査・計画認定作成提出）									
埼玉	1・2日UTレベル1・2学科講習会、5日総務委員会、展示販売会打合せ会議、8日三峯神社安全祈願、8・9日UTレベル2学科講習会、9日三峯会ゴルフコンペ、12日理事会、13日青年部会役員会、15日第20回展示販売会、21日性能評価研修会									
栃木	9/5 運営委員会、9/13 定例理事会、9/20 青年部役員会、9/26 技術委員会							2. 会議予定 10/18第3回関東支部会（新潟開催） 10/18関東支部事務局長会議（ 〃 ） 10/26関東支部共済推進会議 開催予定		
群馬	9/6青年部全員協議会開催 9/22青年部研修会開催 9/24組合ゴルフコンペ 開催									
長野	9/14：県M会市況調査、9/15：UT学科講習会、9/23：青年部「ふれあい人材フェア」									
山梨	＜会議等＞7日：理事会 11日：山梨県労働災害防止団体連絡協議会 14日：山梨県産業技術センター運営委員会 25日：青年部会 26日：経営近代化委員会 27日：溶接安全委員会 28日：教育技術委員会、＜教育等＞NDI-UT学科準備4、5日 アーク溶接特別教育18、19日（堀之内）鉄骨マニュアル集勉強会19日 ＜その他＞7日：山梨県溶接競技大会表彰式 15日：溶接技能者評価試験 20日、26日：工場審査打合せ 28日：ファナック関工場見学									
新潟	9/10 青年部 勉強会「働き方改革ほか」、9/20 第3回関東支部運営委員会 9/21 全協協と青年部各県代表との意見交換会、第12回親睦ゴルフコンペ(37名) 9/21,22 製作管理技術者 学科講習会(42名)、9/18,19 後期の工場審査説明会									
(B)										
都県名	① 持施工量 (ヶ月)			② 稼働率%	③ 見積物件数 (Mグレード)			④ 材料費 (位：千円) 建方込・別		
	Rグレード	Mグレード	Hグレード		多い	普通	少ない	S造 (込)	コラム (込)	SRC (別)
東京	2～3	4～5	8～12	90～120		○		110～140	110～140	—
千葉	—	3～7	3.0	90～100		○		110～130	110～135	135
神奈川	3.6	3.6	10.0	94～97		○		96～130	99～150	141～155
茨城	1～2	3～5	6～9	80～120		○		100～130	100～140	120～140
埼玉	3.4	4.7	8.8	89.5～95.4		○		105～119	120～130	139
栃木	2～4	2～8	6～12	90～120		○		100～125	105～135	—
群馬	3～4	3～8	7～12	95～110			○	100～150	110～150	—
長野	2～3	2～8	7～11	30～120		○		85～140	100～140	—
山梨	3	1～7	6～11	80～100			○	95～140	95～150	125～145
新潟	5	4	10	95～105		○		100～125	120～125	—
(C)										
都県名	① 景気の見通し・業界対策に関する意見・提案									
東京	下位グレードにおいてボルトの入手が困難になり建て方工事ができない事態が起きている。上位グレードに対して適切な発注を要請する等取り組みが求められる。									
千葉	HTB、コラム等が不足している。材料確保が困難な為、早めの手配が必要。建方の日程等調整が必要。									
神奈川	ボルト不足、図面の遅れなどの影響もあるのか、本来の活況さが感じられない。									
茨城	技能実習生が定着しつつあります。外国人労働者の受入を国策として拡大するようですが、業界に資する様な情報を共有出来たらいいと思います。									
埼玉	先々の物件依頼や囲い込みが増えているが、今だ図面承認の遅れや時期づれが生じているので具現化するまで話に乗らない組合員もいて堅調な需要の一端が見られる。									
栃木	・HTBの納期3.5～4カ月（全協協よりメーカーに働きかけを願いたい） ・施工図チェック遅れで山積みにしわ寄せが来ている ・溶接工、為、輸送車両の不足。									
群馬	①施工図の物決めが遅れて加工の時期がずれ、工場の空きや、他の工事と納期が重なって工場キャパを超えた生産を強いられる。②加工応援をお願いしようとしても、なかなか応援先を探せない。									
長野	ボルト・デッキ・コラムの入荷が遅く工程が思うようにいかない。人材不足。社員の高齢化。鋼材費の上昇。設備の老朽化。									
山梨	仕事量は県外依存が続いている									
新潟	稼働状況は、上位グレードを中心に全体として繁忙状況で推移している。一方で、材料の値上がりに加えて高力ボルトの入手困難が顕著になり、納期を考えると受注できない案件が出てきている。高力ボルト納期が落ち着くのは、来年夏頃まで影響が残ると思われる、早い安定が望まれる。									

関東支部【状況報告書】										
(平成30年10月分)										
提出日 平成30年11月5日										
(A)										
都県名	① 各県組合の活動状況							② 支部の活動状況 (要旨)		
東京	5日関東H全委員協議会、18日関東支部合同事務局長会議、23日M会・理事会、24日全国M会役員会、26日関東支部共済推進会議							1. 支部 会議 開催状況		
千葉	10/9西部支部会10/10北部支部会10/11南部支部会10/12東部支部会10/18関東支部会・局長合同会議10/24建産連理事会、Mグレード部会10/26関東支部共済会議							10/18第3回関東支部会 (新潟開催) 10/18関東支部事務局長会議 () 10/26関東支部共済推進会議 開催		
神奈川	10月25日役員会を組合事務所で開催した。									
茨城	5日第4回理事会、10日水戸市長と語る会、12日建築関連団体交流会、27日東関東非破壊検査研究会研究発表会、その他実習生企業巡回指導									
埼玉	3日総務委員会、10日理事会、22日組合監査									
栃木	10/3 性能評価サポート (1社)、10/10 性能評価審査 (1社)、10/11 定例理事会、10/16 経営近代化委員会、10/30 青年部役員会									
群馬	平成30年後期性能評価申請書提出 (5社)、10/3県自民党へS造化の推進を陳情、10/12〜14鹿児島研修旅行							2. 会議予定		
長野	10/9: 常任理事会、10/11: 臨時(東北信) 技術委員会、10/25・26: 工場審査							11/22関東支部女子研修会 開催予定		
山梨	<会議等>5日: 理事会 18日: 溶接安全委員会 23日: 青年部会 29日: 教育技術委員会 <大会等>2日: 山梨県産業安全衛生大会 20〜21日: 全国溶接競技大会 26日: 工業系高校生実践的技術力向上事業報告会 <その他>3日: 工場審査打合せ 6日: 静岡青年部との合同研修・交流会 (青年部) 13日: 溶接技能者評価試験 18日: 安全パトロール 25日: アーク溶接特別教育 (〜27日)									
新潟	10/05 県史支部 ゴルフコンペ、10/11 第2回女性部会、10/12 青年部 勉強会[建物の被災度のランク付けの根拠](31名)、10/18 第3回関東支部会・局長合同会議(新潟県新発田市)、10/24 第3回総務委員会、10/25 建専連 新潟県土木部との意見交換会、10/26 関東支部 共済推進会議									
(B)										
都県名	① 手持工事量 (ヶ月)			② 稼働率%	③ 見積物件数 (Mグレード)			④ 材料費 (位: 千円) 建方込・別		
	Rグレード	Mグレード	Hグレード		多い	普通	少ない	S造 (込)	コラム (込)	SRC (別)
東京	3〜4	5〜6	10	100		○		120〜150	120〜150	—
千葉	—	3〜6	3.0	90〜120		○		110〜130	125〜135	—
神奈川	3.7	3.7	9.6	91〜96		○		85〜130	101〜147	143〜156
茨城	2〜3	3〜6	6〜9	80〜120		○		100〜130	100〜140	120〜140
埼玉	3.9	4.5	7.8	93.6〜95.4		○		119〜121	119〜131	—
栃木	2〜4	2〜8	6〜12	100〜120		○		100〜125	105〜135	—
群馬	2〜4	3〜8	7〜12	90〜110		○		105〜140	110〜150	—
長野	4〜8	1〜8	5〜11	30〜120		○		90〜120	100〜140	該当なし
山梨	2〜4	1〜8	6〜13	80〜100			○	100〜125	110〜135	125〜130
新潟	4	4	10	100〜105		○		115〜125	110〜125	—
(C)										
都県名	① 景気の見通し・業界対策に関する意見・提案									
東京	特に下位グレード中心に高力ボルトが入手できず建て方計画が立てられない状態が続いている。この状態が長く続けば鉄骨構造からRC造に変更される物件が増加する。									
千葉	H T B など材料不足の為、手配困難で納期が読めない。それにより鋼材の一次加工やプレート納期の長くなり加工が遅れ気味。発注者側(役所・ゼネコン)からもボルトを調達出来るかどうか心配されており、適確な状況を全構協並びにボルトメーカー(協会)は公表していただきたい。現場職人不足。									
神奈川	材料調達難、単価の下落傾向などマイナス要因が増えつつあるようである。									
茨城	賛助会共済品目の拡充したので、定着を図りたい。実習生とエンジニアのパッケージ・CADのアウトソーシング等組合員の利用価値のある事業と組合財政基盤の両立できる事業を企画検討している。									
埼玉	11月14日は埼玉県民の日。県内では、毎年この日を中心にいろいろなイベントが開催され、埼玉県庁でも各種イベントが行なわれるが、今回、当組合も埼玉県庁敷地内での出展が決まった。									
栃木	・H T B の納期問題 ・施工図チェック遅れ ・溶接工、腐、輸送車両の不足。									
群馬	鋼材・ボルト納期が長期化しており、工場製作・現場工事に影響が出ている									
長野	物件の重なりが多くなってきている。鋼材の入荷が不安定。図面の決まりが悪く、加工が進まない。社外溶接技能者が少ない。									
山梨	資材の調達状況をにらみながらの受注となっている。									
新潟	高グレードは首都圏の案件を取り込んでいるため、十分な仕事量を確保している。その他のグレードは、その協力工場として、加えて地元の少ない案件を拾いながら仕事量の調整をしており、総じて当面の工場運営には問題なさそうだが、材料価格の上昇による収益の圧迫や、ボルト納期の大幅な遅延によって、受注判断に苦慮する会社が多くなってきている。									

《 北 陸 》 支 部 状 況 報 告

(平成30年9月分)

(A)

提出日：平成30年11月2日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
県名	活動要旨	活動要旨
富山県	9/6・ 中小企業団体中央会・情報連絡員会議 9/7 建専協・定時総会 9/18 青年部会・第3回役員会 9/25 北陸Hグレード協議会 9/26 中小企業団体中央会レディース連絡会 9/27 第4回正副理事長会(金沢)	9/20 全構協・第4回理事会(東京) 9/21 全構協・品質管理委員会(東京) 9/21 全構協理事と全国青年部代表者との意見交換会(東京) 9/27 第2回北陸支部役員会 全構協共済推進会議 全構協三役との意見交換会(金沢)
石川県	9/8 第7回ゴルフ交流会 9/29 JSCA北陸支部とのゴルフコンペ	
福井県	9/10 UTレベル1学科講習会 (～9/12) 9/13 定例三役会、定例理事会 9/16 青年部会例会 9/19 認定部会役員会、例会 9/21 鉄骨製作管理技術者試験準備講習会 (～9/22) 9/19 地元GC団体に要望活動 9/28 行政・設計団体に要望活動	

(B)

※ ④富山県は、本体の加工費のみ・オントラ渡しとする

県名	①手持工事量 (ヶ月)	②稼働率 (%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円)建方:含む		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
富山県	4～8	90～110	○			～	～	70～110
石川県	3～10	90～100		○		190～250	～	200～250
福井県	3～10	80～120		○		180～260	～	190～260

(C)

①今後の景気動向と見通しについて ②業界対策	
県名	見通し・意見・提案
富山県	鋼材やHTBの納期の長期化、単価の不透明性は殆どのGCには理解はしてもらえるが、地場GCには理解してもらえず宙に浮いている物件がある。鋼材等の納期を考えると、半年以上前の出図とファブの決定が絶対条件となるが、建方日からの逆算工程で決まるのが実情である。働き方改革の問題もあり八方ふさがり状態であることを、業界として強くアピールする必要がある。
石川県	依然として繁忙状態、高稼働率が続いているが、工期遅れの物件集中により、会員内で製作物件が移動しており薄利多忙の感あり。溶接工の不足、ロール材、BH、ボルトの入手難(3ヶ月～半年先)は依然として改善されず。
福井県	集まれば鋼材資材の入手難が必ず話題に挙がる。過去に経験したことのない事態に直面し、早速県内関係機関に対して早期の発注情報要望書を提出した。県内GC団体のトップに働きかけることで、傘下GCの状況理解を深めることに協力を得ている。しかし、不安解消の見通しと解決の糸口は未だ見えていない。期を逃さず全国レベルでの業界行動が必要であると考え。

《 北陸 》 支部 状況報告

(平成30年10月分)

(A)

提出日：平成30年11月2日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
県名	活動要旨	活動要旨
富山県	10/1～5 技術・品質サポート(H1社・R3社) 10/29 中小企業青年中央会・富山県大会	
石川県	10/5 北陸BC青年部役員会(金沢) 10/9 第5回三役会、第5回理事会、 賛助会員との交流懇談会 10/13 鉄骨製作管理技術者試験(金沢) 10/20 北陸JSCAとの勉強会 10/26 第3回金沢支部会(金沢)	
福井県	10/3 総務委員会 10/9 技術委員会 10/11 定例三役会、定例役員会 10/21 青年部会、福井県青年中央会まつりに出展 10/26 福井県中央会県大会 10/31 共同受注委員会	

(B)

※ ④富山県は、本体の加工費のみ・オントラ渡しとする

県名	①手持工事量 (ヶ月)	②稼働率 (%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円)建方:含む		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
富山県	4～10	100～110	○			～	～	70～110
石川県	3～10	90～100		○		190～250	～	200～250
福井県	3～8	80～120		○		180～260	～	190～260

(C)

①今後の景気動向と見通しについて ②業界対策	
県名	見通し・意見・提案
富山県	首都圏などの大型物件は言うに及ばず、中小物件の着工も堅調に推移しており、各ファブの工場稼働率は100%を超える水準である。Mグレード以下の工場もフル稼働であり、地場ゼネコンがファブを探してもノーグレードを含めても見つからない状態。また、HTBの納期が5～6ヶ月かかっており、短納期の地場物件が宙に浮いており、もっと発注を早くしないと今後も宙に浮く物件が出てくると思われる。
石川県	全体的に繁忙状態が続いている。Hグレードでは来年夏以降の仕事に対して、ゼネコンによる囲い込みが始まっている。鋼材・ボルトの入手難、トラックの手配難が続いており、長距離輸送費は右肩上がりです。ファブの見積り段階での発注が鋼材価格を吊り上げていく感があり、注意が必要。
福井県	繁忙状態が続いている。福井国体の終了と同時に県内公共工事の入札情報が動き出しており見積りの引き合いも出てきたが、手持ち工事の進捗が芳しくない中で鋼材需給ひっ迫の不安が拍車を掛けているため、なかなか受注決定に至らない傾向にある。

< 中 部 > 支 部 状 況 報 告

(平成 30 年 9 月分)

提出日 平成 30 年 11 月 7 日

(A)

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等		中部支部活動・行事等
愛知県	14 日 (金) 運営委員会 18 日 (火) H部会		1 日 (土) 青年部中部BC 6 日 (木) 中部支部会 20 日 (木) 全構協:理事会 出席 21 日 (金) 全構協:青年部意見交換会 出席 27 日 (木) } 鉄骨製作管理技術者 勉強会 28 日 (金) } 29 日 (土) 青年部中部BC
静岡県	26 日 (水) 役員会		
三重県	AW検定実技講習会 開催		
岐阜県	14 日 (金) 東濃支部会 28 日 (金) 中濃支部会 理事会 飛騨支部会		

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円) < 建方 = 含む >		
都道府県	手持工事量	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造	コラム造	SRC造
愛知県	2 ~ 15	80 ~ 130		○		200 ~ 260	190 ~ 260	—
静岡県	3 ~ 10	65 ~ 110		○		220 ~ 290	180 ~ 265	—
三重県	4 ~ 10	90 ~ 100		○		200 ~ 250	220 ~ 250	—
岐阜県	2 ~ 10	100 ~ 200	○	○		170 ~ 250	190 ~ 270	—

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策(意見～提案)
都道府県	見 通 し	意 見 ～ 提 案
愛知県	・仕事量確保に困窮している組合員はいない状況である。 ・鋼材＆副資材の入手に苦慮しているものの何とか確保している。	・利益の無い多忙観は、自社の加工能力や業界事情の知悉欠如である。 ・資材等の入手難については各県対応は無理、全構協で御対応を。 ・こういう時こそ、誠に "大名商売、を懐むべき、天に唾吐く事になる。
静岡県	施工図決定の遅れ、鋼材納期の遅延が生産工程を狂わせる要因となり、生産調整に苦慮する事態を生んでいる。 また、鋼材、副資材の動向に加え、仕事の発注量の動向も先行きが見えない。	今度は受注調整をして、谷をどうやって穴埋めするかを考えた方が 良い環境か。 また正確な情報を得て、交渉は厳しく行うことが必要か。 材料確保のため、早めに図面を入手し、早めの手配が必要か。
三重県	変わらず忙しい状況が続いている。 見積り物件数に減少気味という意見も見られるが、受注確率は高いとの事。	鋼材、H・TBなどの入手難に対処しないといけないのでは！
岐阜県	・各社忙しい状況。 ・材料が入りにくい状況。特にボルトが無い。 ・31年3月頃までの話がある。(梁加工)	・年内の物件を受注するのは難しい。

< 中 部 > 支 部 状 況 報 告

(平成 30 年 10 月分)

提出日 平成 30 年 11 月 7 日

(A)

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等		中部支部活動・行事等
愛知県	5 日(金) 性能評価説明会 & 勉強会 9 日(火) 理事会 技術委員会 青年部会 17 日(水) 女性部会 性能評価工場審査 1件<延期分>		24 日(水) 中部支部会 中部支部共済推進会議
静岡県	24 日(水) 三役会		
三重県	24 日(水) 京都府組合との交流会開催に向けての打合せ会 開催 JSOA三重部会・県市営繕課担当者とのUT講習会、 意見交換会 実施		
岐阜県	10 日(水) 西濃支部会 11 日(木) 岐阜支部会 15 日(月) 東濃支部会 18 日(木) 中濃支部会 26 日(金) 理事会 飛騨支部会		

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円) < 建方 = 含む >		
都道府県	手持工事量	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造	コラム造	SRC造
愛知県	2 ~ 15	80 ~ 130		○		200 ~ 260	190 ~ 260	—
静岡県	3 ~ 12	65 ~ 120		○		218 ~ 290	180 ~ 265	—
三重県	4 ~ 12	90 ~ 100		○		200 ~ 250	220 ~ 250	—
岐阜県	2 ~ 6	90 ~ 200	○	○		180 ~ 220	190 ~ 220	—

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策(意見～提案)
都道府県	見 通 し	意 見 ～ 提 案
愛知県	・一次加工の納期が長く、困窮している構成員が多い。 ・小規模構成員では、加工図決済が遅いとの声が多い。	・安全や品質管理を等閑にすると、あらゆる困窮事態が発生する。 ・ここ数年の多くの不正問題の因は「複合汚染」であろう。 ・こういう問題の解決の選択肢として「女性の皆さんの御活躍」が大事だ。 ・検査業務や環境改善業務などが女性の活躍の舞台に相応しい。
静岡県	鋼材の供給不足はかなり深刻化しており、施工図の決定遅れや工事そのものの遅延、搬送車両の不足、現場施工人員の不足等の影響も相俟って、製造工程及び現場施工の混乱を生じている。その対応により、収益が圧迫され始めているが、各社の山積み状況は堅調に推移している。	鋼材の供給不足については、各社の努力だけでは賸り切れないため、その現状を発注元に理解してもらうことに、各社腐心している。 同業者間の相互協力だけでは、乗り切ることが難しい状況に環境下ではあるが、新しい技術の導入による効率化を試みる動きも始まっている。
三重県	しばらくは超多忙な時期が続くそう。 一次加工業者が多忙な為、工場加工の工程に支障が出つつあるとの意見あり。	鋼材、THB等の入手難についてのPRが必要では？
岐阜県	・加工単価が8万～9万以上の高い水準。 ・コラム、ボルトの入手が困難。 ・材料入荷遅れ、資材の不足等で建方の日程が遅れている様子。そういった事情が改善されないと発注が控えられ需給のバランスが崩れる可能性があり心配。	・組立検査の時間短縮に資するMRデバイスの導入を検討している企業あり。

近畿支部状況報告

(平成30年 9月分)

提出日：平成30年10月9日

(A)

府県名	① 全構協推進事業の現状 現 況 要 旨	② 支部活動状況 活 動 要 旨
滋賀県	・9/12 性能評価説明会 ・9/12 認定工場部会	・9/20 全構協 第3回 理事会 ・9/21 全構協と青年部との意見交換会 ・9/26～29 鉄骨製作管理技術者講習会
京都府	・9/14 京都南支部会 ・9/14 工場サポート 1社 ・9/15 青年部会京都役員会	
大阪府	・9/5 技術委員会 ・9/6, 12 工場パトロール ・9/13 運営共済事業委員会 ・9/19 市内支部会 ・9/27 北大阪支部会	
兵庫県	・9/5 運営委員会 ・9/20 三役会	
奈良県	・9/4, 10 中北和支部工場視察 ・9/8 第3回共済・経営近代化委員会 ・9/11 技能フェスティバル 第1回会議	
和歌山県	特に無し	

(B)

府県名	手持ち工事量 (何ヶ月分)	稼働率 (%)	見積物件数			受注価格(単位：千円) 建方＝含む・含まず		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
滋賀県	3～12	80～100	○			195～270	～	190～230
京都府	5～10	90～100		○		180～240	～	180～250
大阪府	3～5	90～100		○		180～220	190～240	190～230
兵庫県	3～6	90～100		○		180～220	～	180～230
奈良県	1～8	80～100		○		190～280	～	190～230
和歌山県	4～12	80～100		○		190～230	190～230	190～230

(C)

府県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策(意見～提案)
滋賀県	RJグレードが3ヵ月・Mグレードが6ヵ月・Hグレードが8～12ヵ月の山積み。来年春先以降の見積は活発。鋼材入手・日程には注意したい。	人材確保の方策
京都府	各グレードアップ共4～5ヶ月の仕事量を確保して繁忙で有るが、鋼材価格の高騰、トビ、現場溶接工輸送等も高騰しており、又不足気味で有る。特に高力ボルトの入手難で各社苦慮しています。図面の決定遅れで応援を頼んでも引き受け先がない。收拾には年明けまでかかりそう。年内はさばききれない状況で来年も引合は沢山あるが確定しないで困っている。年明けに向けての見積もりが出てくるか不安である。	高力ボルトの入手難は当分続きそう。早期の受注が必要。鋼材、副資材の高騰、入手難、トビ、かじ工、溶接工、トラック輸送等あらゆる関連事が不足、高騰、業界間の情報交換が重要。
大阪府	仕事については、現在も各社3～5ヶ月程度の受注量があり忙しくしているが、鋼材の手配が順調ではない。また最近では各社からの物件報告が少ないのも気になる。	現在、どこの工場でも若い人が少ない。今後10年先に若い人が魅力ある職業と感じ、選んでもらえる職場をどう整えていくか考えなくては。
兵庫県	各グレード共、先月同様3～5ヶ月程度の手持ちで忙しそう。今後もこの状態が続くと思われる。鋼材、副資材共に価格が上昇傾向で納期も長期化している。	仕事の受注の際、材料(特にボルト)の納期の確認が肝要である。
奈良県	今年、来年は忙しい。年末以降の物件が多い。かなり仕事量有り、ボルト品薄。現状、仕事量は十分に有るものの、鋼材及びHTBの納期遅れが発生し、工期の遅れが出ている。	人材の確保。HTBが無い。メーカーに働きかけ出来ない。人手不足、特に現場。HTB不足に関し、ゼネコに対して説明資料の発行がメーカーで出せないか？
和歌山県	台風の直撃を被災した設備もあり、9月は思うように加工が進んでいないところもある。山積みが各社に高いので復旧を急ぐ。	・ボルトや副資材の品薄感。一次加工納期の遅延等あり。早めの対応が必要。

近畿支部状況報告

(平成30年10月分)

提出日：平成30年11月7日

(A)

府県名	① 全構協推進事業の現状 現 況 要 旨	② 支部活動状況 活 動 要 旨
滋賀県	・10/10 認定工場部会 ・10/20 滋賀県けんせつみらいフェスタ出展	・10/4 全構協 技術委員会
京都府	・10/6 近畿青年部会役員会 ・10/8 AW 検定合同受験追試験 ・10/15 三重県との交流会事前打合せ ・10/18 10 月度理事会 ・10/30 中間工場審査	・10/13 鉄骨製作管理技術者試験 ・10/25 全構協 第3回近畿支部会 ・10/25 全構協三役との意見交換会 ・10/26～28 近畿支部事務局長研修会
大阪府	・10/1 後期性能評価説明会 ・10/17 定例理事会 ・10/24 工場パトロール ・10/25 北支部会 ・10/28 東支部会 ・10/28 南支部会 ・10/27～29 UT 実技講習及び再認証講習	
兵庫県	・10/5 後期性能評価説明会 ・10/5 教育技術委員会	
奈良県	・10/2 第4回理事会、芸術村説明会 ・10/16 青年部第2回定例会 ・10/17 第2技能フェスティバル会議 ・10/27・28 第28回奈良技能フェスティバル	
和歌山県	・10/4 工場審査 勉強会 ・10/4 近代化委員会	

(B)

府県名	手持ち工事量 (何ヶ月分)	稼働率 (%)	見積物件数			受注価格(単位:千円) 建方=含む・含まず		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
滋賀県	3～12	70～100		○		185～275	～	195～230
京都府	6～8	90～100		○		190～250	～	190～270
大阪府	3～5	90～100		○		180～220	190～240	190～230
兵庫県	4～7	90～100		○		180～220	～	180～230
奈良県	2～6	85～120		○		180～300	～	190～200
和歌山県	5～12	80～100		○		190～230	190～230	190～230

(C)

府県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策(意見～提案)
滋賀県	各グレード共、高い山積み継続。ただし BCP 外法など鋼材入手の面で難航している状態で足元の稼働に悪影響をきたしている。HTB も例外ではなく間接的に加工に影響。	人材育成。継続の方策。
京都府	需要状況は好調で各社繁忙ですが鋼材高力ボルトの高騰又入手難が深刻な状況。他課題は山積み、先が見通せ無いので不安で有る。年末まで仕事を立て続けに入っており、年明けがあるので暫く心配はしていない。	鋼材、高力ボルト他入手難、高騰でしばらく受注を控える(来年夏頃まで)資材材料費高騰にて見積り金額を上乗せ。資材不足の品を確保。
大阪府	現在は各社忙しくしている。グレードによって少し違いはあるが全体では年内と来年1月までの仕事は100%確保出来ている。最近では来年2月からの仕事を請けるかどうかを材料価格の動きも思案中というところが多い。	最近工場で働いている従業員の中に外国人労働者が多くなっている。今後この人達が帰国した後工場がどのようになるか心配になる。
兵庫県	年末に向けてますます各社忙しそうである。当分この状態が続くそう。ボルト、ベースPL等の納期待ちで工程がずれ込む工事も見受けられる。来秋の消費税前の駆け込みの影響もでているのでは？	仕事を受注する前にインクッションボルト、コラム、ベース等の納期を慎重に確認する事が肝要。相変らず人材の確保が課題。
奈良県	リビッドを控え屋上広告の鉄骨が増えている。主にホテルOR競技場等。年内は忙しくなりそう。年末から来年春頃までの案件が多い。来年いっぱいまでは仕事量は確保出来そう。ただ教材等入手困難な物が有る為注意しながら受注が必要。	人材育成と定年後の溶接工等に応援して若い社員と交流。ボルト入荷が未定の為建て方日を決められない。案件の話は有るがボルトが無い。入手困難材料等注意喚起をこまめにアナウンスして欲しい。
和歌山県	台風の復旧を急ぎたいが屋根、壁、業者が忙しいので自前での仮工事をしている。仕事は辛いにも多いので資材の高騰を注視しながら運営している。	・ボルト、デッキの先行手配 ・BCRの切断、開先にも納期が必要。

中国支部・状況報告
(平成30年9月分)

(A) 提出：平成30年10月9日

① 各県活動状況			② 支部活動状況
県名	日時	現況要旨	活動要旨
鳥取県	15日 21日 29日	東部支部賛助会員例会 全構協・青年部会 意見交換会（東京） 第13回鳥取・島根交流会（松江）	29日青年部中国ブロック研修会（ヤマネ鉄工建設工場見学）
島根県	21日 29日	全構協・青年部会 意見交換会（東京） 第13回鳥取・島根交流会（松江）	
岡山県	21日	全構協・青年部会 意見交換会（東京）	
広島県	8日 20日 21日 22日	鉄骨製作管理技術者講習会（～9日） 全構協・理事会（東京） 全構協・青年部会 意見交換会（東京） 建築学会中国支部 鋼構造セミナー	
山口県	14日 21日	三役会議 全構協・青年部会 意見交換会（東京）	

(B) (下記項目の内③は、該当項目に○を、④は、<>に、○をつける。)

① 手持工事量（ヶ月）		② 稼働率（％）	③ 見積物件数			④ 受注単価（千円）〈建方＝合む〉		
県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム造
鳥取県	3～6ヶ月	90～120％		○		200～230	—	210～240
島根県	1～4ヶ月	70～100％		○		210～240	—	210～250
岡山県	1～6.5ヶ月	80～100％			○	210～235	260～275	220～240
広島県	3～11ヶ月	80～150％		○		200～240	—	210～240
山口県	3～6月	120％	○			291～297	312～318	286～292

(C)

① 今後の景気動向と見通しについて		② 業界対策（意見・提案）
県名	景気動向と見通し	活動要旨
鳥取県	Hグレードは来年の夏以降も、M以下も年度内までと、受注残は高い山を維持している。 そうした中、H T Bの品薄が続き、建て方日の延期が多く発生しており、そのことが、出荷の遅れ、次の加工への着手遅れ、売上回収の遅れへと負の連鎖が発生し、順調に回復してきた業界の大きな懸念材料となっている。	鳥取県 コラムの納期短縮及びH T Bの確保について、全構協からメーカー等関係先に強く要望を行ってほしい。 また、今後の供給見通しを調査して各県正会員に情報提供をお願いする。
島根県	全般に、年内の仕事量は確保出来ており、人手不足の状況が続いている。 鋼材に関しては、強含み様子見の状況で、先行き不透明感が漂うとともに、高力ボルトの市中在庫逼迫と納期長期化が進み、今後の工程対応の大きな不安材料となっている。	岡山県 H T Bの調達困難に伴う工期遅延可能性について、県内発注機関に事情説明と注意喚起を行った。 この異常現象に対し、組織としての対策が急務と考える。
岡山県	高稼働率を維持しつつ繁忙期に突入している。 首都圏を主な顧客とするHグレードは勿論、地元物件中心のMグレード以下も、年度内ほぼ目途が立った状況。 ただし、ボルト類をはじめ材料調達の問題が拡大し、これからの受注工事実施の可否にまで影響し始めている。 加えて、災害復旧関連事業で、一時的にとび職等現場作業員の不足が発生するなど、折角の良好な受注環境の崩壊に繋がりがねない現象が発生しており、注意を要する。	
広島県	回答企業のうち、1社を除き稼働率100%かそれ以上で多忙と答えており、本格的な繁忙期に入っている。 手持ち工事量は1年超のHグレードを筆頭に、各社概ね今年一杯の仕事量は確保している。 そうした中、図面承認の遅れによる工程遅延の影響に苦しむファブが多い。また、BCPなど鋼材に加え、H T Bの入手困難と納期長期化は深刻で、中ボルトでの建て方実施により中ボルトも不足気味など、材料調達全般が工期遅延と新規受注上の大きな懸念材料となっている。	
山口県	鉄骨工事物件数及び仕事量は、先月同様、若干減少傾向で推移している。 年内一杯、県内ファブは高稼働状況が続く見込み。 県外工事主体で来年度末までの受注残を抱え超多忙のS・Hグレードファブは勿論、Mグレード以下のファブも最低で3～6ヶ月の手持ち工事量を確保している。 図面遅れと鋼材納期長期化に、H T Bの納期長期化が加わり、稼働率低下要因となっている。また運搬車両の手配困難も顕著になってきている。 工事単価は、鋼材価格の上昇分相当の高値受注で推移。	

中国支部・状況報告

(平成30年10月分)

(A)

提出：平成30年11月1日

① 各県活動状況			② 支部活動状況
県名	日時	現況要旨	活動要旨
鳥取県	16日 18日 27日	東部支部例会 理事会 第30回賛助会員合同懇親ゴルフ大会(津山)	3日 第4回中国支部会・全構協三役との懇談会
島根県	1日、4日 10日 16日 21日 23日	工場審査説明会 第4回役員会(出雲) 青年部会第3回役員会(浜田) 全国溶接技術協議会中国地区大会(山口) 松江市新庁舎S造化陳情：日本鉄連と合同	
岡山県	1日 2日 11日 15日	ボルト不足の状況報告・陳情：県議会 ボルト不足の状況報告・陳情：岡山市、同市議会 移動理事会(津山) ボルト不足の状況報告・陳情：県建設業協会	
広島県	5日 12日 19日 26日	工場審査サポート 三役会・理事会 トラック運賃の改正等に関する講習会 工場審査 日本鉄連主催「建築用鋼材と利用技術セミナー」	
山口県	4日 10日 31日	全構協・技術委員会(東京) 性能評価事前勉強会(30年後期) 第4回理事会 全構協・技術委員会(東京)	

(B)

(下記項目の内③は、該当項目に○を、④は、<>に、○をつける。)

① 手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③ 見積物件数			④ 受注単価(千円)<建方=含む>		
県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム造
鳥取県	3~5ヶ月	90~120%		○		210~235	—	220~245
島根県	1~3ヶ月	80~100%			○	205~240	—	215~250
岡山県	1~6.5ヶ月	80~100%			○	210~235	260~275	220~240
広島県	2~10ヶ月	90~150%		○		200~240	—	210~240
山口県	2~5月	110%	○			291~297	312~333	286~292

(C)

① 今後の景気動向と見通しについて		② 業界対策(意見・提案)
県名	景気動向と見通し	活動要旨
鳥取県	鋼材・ボルトの需給ひっ迫の影響が多方面に拡大して、工程どおりの施工が困難な状況。 工事の山は高いが、製品の出荷が決まらず、置き場がないため、次の工事着手に支障をきたす状況が多発し、工程管理の最大懸念となっている。	鳥取県 H T B・コラムの納期長期化で建て方工程が間に合わない。 ゼネコン・役所に、工期見直しをお願いしたい。
島根県	全般に年内は忙しい状況で、手持ち工事量が多く協力業者の確保に苦労するファブもある。 鋼材に関しては、先行き不透明感が漂うとともに、高力ボルトの市中在庫が逼迫し、納期が6か月以上もかかり有効な対応がなく、受注の手控えや工期の順延など影響が出はじめている。 G Cや建設業者に対し、この状況の周知と理解促進を業界全体で取り組んでほしいとの声が挙がっている。	岡山県 ボルトの調達困難の問題は、鉄骨製作から建て方まで一括で請負うことの多い地方の中小ファブにとっては死活問題である。 建て方遅延⇒製品の出荷停滞 ⇒ 置き場所確保と持ち場の経費発生⇒代金回収の遅れ という悪循環が発生し、資金ショートに繋がりがかねない深刻な事態が発生している。 この現状をしっかりと認識し、全国レベルで対策を講じてほしい。
岡山県	繁忙期を迎え、一部に西日本豪雨の被災の影響が出たファブもあるが、各社とも手一杯の状況が続く。 ただし、その原因に、工事量の多さだけでなく、人手不足や材料調達に起因するものがあり、懸念される。 特にボルト調達の問題は、全国的に深刻さを増しつつあり、今後の推移を十分見守る必要がある。	
広島県	回答企業のうち、1社を除き稼働率100%かそれ以上で多忙と答えており、本格的な繁忙期が続いている。 手持ち工事量は1年超のH G レートを筆頭に、各社概ね今年度一杯の仕事量は確保している。 そうした中、B C Pなど鋼材に加え、H T Bの入手困難と納期長期化は深刻さを増しており、材料調達全般が工期遅延と新規受注上の大きな懸念材料となっている。	
山口県	鉄骨工事物件数、仕事量及び鉄骨価格は、先月と変わらない。 県外工事主体で来年度末までの受注残を抱え超多忙のS・H G レードファブは勿論、M G レード以下のファブも最低で2~5ヶ月の手持ち工事量を確保している。 図面遅れと鋼材納期の遅れはあるものの、県内ファブの多くが稼働率100%である。 しかしながら、H T Bの納期の遅延や熟練職人不足、運搬車両の手配難が深刻であり、懸念の声が拡大しつつある。	

(四 国) 支 部 状 況 報 告
(平成30年9月分)

提出日 平成30年10月11日

(A)

①正会員活動状況		②支部活動状況
都道府県名	活 動 要 旨	活 動 要 旨
徳島	9/ 5 青年部幹事会 9/11 第6回情報交換会 9/20 徳島支部会 9/28 理事会	1 四国支部会 日時:平成30年9月5日(水) 場所:グランフォーレ(四国中央市) 参加者:10名 2 建築鉄骨製作管理技術者講習会 日時:平成30年9月26日(水)・27日(木) 場所:グランフォーレ(四国中央市) 参加者:62名
香川	9/12 工場審査打合せ 9/13 工場審査打合せ 9/14 委員長会議 9/26 鉄骨製作管理技術者講習会 9/27 鉄骨製作管理技術者講習会	
愛媛	9/ 6 東予地区会 9/20 三役会・理事会 「事業承継の必要性について」セミナー	
高知	9/ 7 中央会講習会	

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積件数			④受注価格(単位千円)建方を含む		
都道府県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
徳島	2 ～ 6	80 ～ 100			○	210 ～	～	210 ～
香川	2 ～ 6	80 ～ 100			○	210 ～ 250	～	～
愛媛	2 ～ 7	90 ～ 100		○		190 ～ 250	～	～
高知	2 ～ 5	80 ～ 100		○		200 ～ 250	～	～

(C)

①今後の見通し

都道府県名	見 通 し	意 見 ～ 提 案
徳島	9月の見積り件数は、前月比53%に落ち込んだ。県内物件も、前月比63%となっている。各組合員とも忙しい状況が続いているが、副資材の入手難等もあり、今後の受注状況が心配される。	性能評価制度のPR。積算会社の活用。法定福利費を含んだ見積書を実施する。組合員同士のゆずりあい、助け合いが必要。忙しさの中にも安全作業を怠らない。常に整理整頓。
香川	前月に引き続き稼働率は高水準を推移し、全体としても山積み状況は良好なところが多い。しかし、高力ボルト品不足などの課題もあり、今後の見通しは厳しいものがある。	現状課題として、人手不足・契約の遅れ・鋼材の値上がり・高力ボルトの品不足など取り巻く環境は厳しくなっており、その対策をどうするかが急務であり組織的にも検討する必要があると思われる。
愛媛	組合員のほとんどで11月末から年末までの仕事量を確保している。また、見積も出ているとの事。但し、7月中旬以降急激に高力ボルトの確保難が起き、12月の引合いをキャンセルした、見積をボルトの手配で躊躇している等の報告もあり、今後も引き合いはあるのに受注を躊躇する事態も予想される。	見積件数が多くなる程に受注意思の無い見積については他社の見積を参考にするなど、K Sシステムを有効活用する事が仕事の効率化・見積経費減に繋がる。入手難の高力ボルトの供給安定化に向けた関係各所への働きかけを要望する。
高知	見積件数は前月と同じ位で前年の8割程度である。手持ち工事量はMで4～6ヶ月位でRも含め適度な稼働率で推移している。価格は横這い傾向である。今後の見通しは不安とするFABが6割程度。	物件報告を徹底し情報を共有し 適正価格での受注を目指す。法定福利費を明示した見積書の推進を行い全社が明示するように徹底していく。

(四 国) 支部 状況報告

(平成30年10月分)

提出日 平成30年11月 8日

(A)

①正会員活動状況		②支部活動状況
都道府県名	活 動 要 旨	活 動 要 旨
徳島	10/10 第7回情報交換会 10/15 青年部幹事会	
香川	10/17 第4回理事会 10/22～ ベトナム研修旅行	
愛媛	10/ 4 東予地区会	
高知	10/11 中央会講習 技能実習制度について	

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積件数			④受注価格(単位千円)建方を含む		
都道府県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
徳島	2 ～ 5	80 ～ 100		○		210 ～ 250	～	215 ～
香川	1 ～ 5	90 ～ 100		○		210 ～ 260	～	～
愛媛	2 ～ 7	90 ～ 100			○	190 ～ 250	～	～
高知	2 ～ 5	80 ～ 100		○		200 ～ 250	～	～

(C)

①今後の見通し

都道府県名	見 通 し	意 見 ～ 提 案
徳島	10月の見積り件数は、前月に比べ2倍の件数となっているが、9月が8月の半分だったため、平年並みである。しかし、県内物件は少ない状況が続いている。副資材等の入手困難、現場鍛冶の手間不足等で工期がタイトなため、建て方納期に注意が必要になってくる。	性能評価制度のPR。積算会社の活用。 法定福利費を含んだ見積書を実施する。 鋼材、副資材の入手難を踏まえた製作納期の見直しが必要。
香川	建築鋼材の品不足など問題はある中、見積もりは前月より若干増加している。また、稼働率も高水準を維持しており、MグレードFABは来年中旬頃まで見通せるところが多い。	他県と同じく、建築鋼材などのひっ迫状況は大きな問題であり、県への陳情も予定しているが全構協としても対策を考えて貰いたい。
愛媛	大体のところで2月までの仕事量を確保している。また、見積も出ているとの事。但し、ボルト、BCR鋼手配難から年明け以降の受注を断ったり、受注があるのに今の工場稼働率が落ちているところも多い。現状仕事はあるのに今後の状況が見通せない感じである。	見積り件数が多くなる程に受注意思の無い見積りについては他社の見積りを参考にするなど、K Sシステムを有効活用する事が仕事の効率化・見積り経費減に繋がる。材料入手難による工場稼働率低下による経費増大をどう抑えるかが問題である。
高知	見積り件数は前月と同じ位で前年の8割程度である。手持ち工事量はMで4～6ヶ月位でRも含め適度な稼働率で推移している。価格は横這い傾向である。今後の見通しは不安とするFABが6割程度。ボルト、コラム等の品不足により年末年始の工事が不透明なものがある。	物件報告を徹底し情報を共有し 適正価格での受注を目指す。法定福利費を明示した見積書の推進を行い全社が明示するように徹底していく。

九州支部状況報告
(平成30年 9月分)

(A) 提出日:平成 30年 10月 4日

県名	① 県内の活動状況	② 支部活動状況
		活動要旨
福岡	・9/6 原口剣生県会議員(当会顧問)県政報告会 ・9/8 青年部会研修会・例会 ・9/21 性能評価認定説明会 ・9/25 福岡県建築鉄骨協議会運営委員会	・9/7 鉄骨製作管理技術者講師打合せ会 ・9/13 NDI-レベル1直前講習会
佐賀	9/4 第4回 定例理事会 9/13 品質・安全パトロール 9/20 全体協議会 基準マニュアル改定講習会	・9/20 九州支部H部会役員会・パトロール委員会・例会 ・9/26～28 鉄骨製作管理技術者講習会
長崎	9/1 溶接技術講習会開催, 9/11 三役会, 9/12 長崎県建築鉄骨研究会 作業部会開催, 9/19 建専協 第1回理事会出席, 9/22 長崎県溶接技術競技会参加, 9/27 第5回理事会, 9	
熊本	9月7日～9月9日 青年部研修旅行、9月13日 理事会・定例会開催	
大分	9/12三役会、理事会、全員協議会、賛助会員の商品紹介、懇親会 9/18～21UT機器の操作手順指導 9/24～26鉄骨超音波検査技術者実技講習会 9/29超音波実技試験	
宮崎	4日:古川禎久衆議院議員時局報告会 12日:キャリアアップシステム説明会参加 15日:自民党政経セミナー参加 19日:UT一次試験対策講習会開催 28日:第3回理事会・都城地区会員交流会	
鹿児島	15日創立50周年記念事業実行委員会	
沖縄	・9/3:定例理事会、3日:技能五輪専門委員会、5日:建専連絡会、8日:沖縄県溶接技術競技会、14日:定例営業部会、	

県名	① 手持工事量(ヶ月)			②稼働率 (%)	③ 見積物件数			④受注価格(単位:千円)(建方=含む)		
	H	M	R・J・未		多い	普通	少ない	S造(H+H)	コラムH造	SRC造
福岡	6～12	3～6	1～3	90～100			○	210～260	210～260	—
佐賀	6	2～6	2～4	90～100		○		200～250	200～260	—
長崎	6～10	4～6	—	90～100		○		220～270	220～270	—
熊本	4.9	3.2	2.9	98.8		○		—	203～270	—
大分	6～9	4		90～100		○		220～260	200～280	—
宮崎	5～12	4～6	1～5	70～100		○		178～270	182～270	240～260
鹿児島	6～12	1～4	1～3	80～100		○		220～270	200～270	
沖縄	1.5～3	2	—	85～100			○	250～290	240～280	

(上記項目の内、③については該当する項目に○を付けて下さい。)

県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策についての提案事項
福岡	・物件報告、見積物件数とも少ないが、手持工事量は堅調である。	・適正価格の受注、会員相互の協調、情報の共有化の推進。
佐賀	・ボルト等資材不足が相当深刻であり工程に影響が出ている。 ・年内は忙しいが、鋼材、ボルトの納期が厳しい。	・鋼材、資材の供給不足について業界から動いてほしい。
長崎	手持ち工事量としては各社4ヶ月以上確保し、グレードに関わらず忙しい状況です。	H.T.B. コラム材などが入手難である。業界で対策できないか。
熊本	引合い工事・手持ち工事共に一定の水準で安定している。	—
大分	◎工事量が多い。引き合いも多いが鋼材の長期入手難、ボルトの不足等により仕事を受けられない状況だ。◎来年は大型物件がでる予定なので忙しい。◎鋼材、HTBの品薄なのに図面の承認が遅いため、発注がかけられず固まる物件が多い。◎鉄骨の大型案件は価格面で厳しくなっている。	◎ゼネコン、設計事務所等にボルト等の納期について業界として説明をすべきだ。それにより早期の発注をお願いする。◎当分は価格を下げないでほしい。県内の物件で県外のFABが製作しないように努めてほしい。
宮崎	・民間物件が増加傾向にあり、グレードに拘わらず忙しい状況にある。 ・鋼材・ボルトの入手難により工程管理が難しくなっている。	・S造の推進及び認定工場のPR活動と共同受注の推進 ・適正価格による受注契約(採算性の追求)
鹿児島	仕事はますます増加傾向で見積りを断る場面も出て来ているが、ボルト不足やチェックバックの遅れ等により予定通りに進まない。	HTB問題で現場工程に問題噴出！この先鉄骨離れが心配です。Fab仲間で情報発信を！
沖縄	・中小規模物件の概算見積り件数が多くなっている。	・情報の共有化及び適正価格での受注。

九州支部状況報告

(平成30年10月分)

(A)

提出日:平成 30年 11月 5日

県名	① 県内の活動状況	② 支部活動状況
		活動要旨
福岡	・10/24 理事会・例会	・10/8 第4回九州支部理事会 ・10/8 九州支部・H部会・商社との懇談会
佐賀	10/2 青年部役員会 10/26 中小企業団体中央会 情報連絡会議 10/26・27 中小企業団体中央会 研修会	
長崎	10/4 後期性能評価申請事前説明会, 10/5 青年部役員会, 10/19 ホームページ追加項目打ち合わせ, 10/20 長崎・佐賀青 年部との合同現場見学会, 10/24 長崎県建築鉄骨研究会 第2 回専門委員会 開催, 10/25 建産連 参議院議員との意見交換会 出席	
熊本	9月13日理事会・定例会開催	
大分	10/18三役会・理事会・認定部会	
宮崎	4日:低電圧取扱特別教育開催 13日:鹿児島県との交流会(ゴルフ・懇親 会)16日:働き方改革セミナー参加 19日:青年部会第3回幹事会開催	
鹿児島	5日理事会・青年部会役員会 13日宮崎県鉄構工業会との交流会 (ゴルフコンペ・懇親会)	
沖縄	・10/2:定例理事会、2日:中央会50周年記念事業、9日:定例営業 部会	

(B)

県名	① 手持工事量(ヶ月)			②稼働率 (%)	③ 見積物件数			④受注価格(単位:千円)(建方=含む)		
	H	M	R・J・未		多い	普通	少ない	S造(H+H)	コラムH造	SRC造
福岡	6～12	3～6	1～3	90～100			○	210～260	210～260	—
佐賀	7	2～4	1～3	80～100		○		200～270	200～270	
長崎	6～10	4～6	—	90～100			○	220～270	220～270	—
熊本	5	3.2	3	99			○	—	210～270	—
大分	6～8	3～4	—	85～100			○	220～260	200～280	—
宮崎	6～14	5	1～3	90～100		○		186-280	190-330	—
鹿児島	6～12	1～7	1～3	80～100			○	220～280	210～270	
沖縄	2～3	2	—	85～100			○	250～290	240～280	

(上記項目の内、③については該当する項目に○を付けて下さい。)

(C)

県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策についての提案事項
福岡	・物件報告、見積件数とも少ないが、手持工事量は堅調である。ただし、ボルトの納期が長期にわたり、入手困難な状況で工期及び受注に支障が出ている。	・適正価格の受注、会員相互の協調、情報の共有化の推進。
佐賀	・ボルトが入荷しないため工期延期、受注が左右される。 ・実際の工事量とボルト発注量にずれがあるように思う。	・鋼材、ボルトの安定供給を全構協からメーカーに対し強く要望できないか。
長崎	各社手持ち工事量は年度内は確保し忙しい状況である。見積り件数は少し少ない状況です。	H.T.Bの納期の件
熊本	工事はある程度出ているが、先行きは見通せない。	ボルトや板等の入手難を国や県に働きかけてほしい。
大分	◎手持ち量が多いが見積もり件数が減ってきている。鋼材の入手の長期化とボルトの不足により工事の変更また延期になるのではと懸念している。◎多忙な状況はまだ続くと考えられる。今のうちに情報交換がスムーズにできる環境づくりが肝要だ。	◎共同積算の利用しかない。◎共積会の競合情報を利用した情報交換が大切だ。
宮崎	・H、Mは来年春先まで仕事を確保している状況。鋼材価格の動向に注意が必要。	・S造の推進及び認定工場のPR活動と共同受注の推進 ・適正価格による受注契約(採算性の追求)
鹿児島	高力ボルト類の不足は深刻で、工期にも影響が出ている。解消の見通しはあるのか？	人手不足、技術者不足、工場不足、他業種も同じと思うが、打つ手が無い状況。とにかく工程管理をしっかり！
沖縄	・鋼材等の入荷遅れや承認遅れで稼働率が低い。引合い物件等の建築確認申請遅れで先行き不透明。	・情報の共有化及び適正価格での受注。

「鉄骨技術研究開発助成制度」について

一般社団法人 全国鐵構工業協会

全国鐵構工業協会（以下、全構協と略す）は、鉄骨製作に関する研究開発意欲の活性化を図り、あわせて鉄骨業界の技術力向上と健全な発展に寄与することを目的として、2017（平成29）年度から「鉄骨技術研究開発助成制度」を開始した。

本制度は、当協会会員・構成員が実施する研究開発に対し、自己負担額と同額まで（最大300万円）の助成金を補助するもので、これまで各社独自で行っていた研究開発や検証実験などについて、業界団体が支援する制度である。

本制度による助成を受けて研究開発した成果は公開され、特許取得に至った場合でも会員・構成員は使用できている。

鉄骨製作に関する課題は、些細なものから、構造設計や素材開発と絡めた難題まで多種多様あるが、当協会の本制度は、学術的な課題よりも、施工面での身近な課題をターゲットにした制度としている。

過去2年で助成対象となった案件は、表に示す3件である。

まだ本制度が十分に周知されていないため、助成案件数は少ないが、前述のとおり、身近な課題はたくさんあるので、是非本制度をご活用いただきたい。

多くの会員各社が本制度を活用することで、品質や生産性が向上し、S造の優位性がさらに高まることが期待される。

当協会としては、本制度を継続して成果を蓄積し、次世代に「ものづくり」の可能性を継承していきたいと考えている。

【制度の内容】

応募方法など「鉄骨技術研究開発助成制度」の内容は次の通りである。

1) 応募資格

全構協会員（都道府県組合）及び構成員。

※共同研究者がいる場合、その所属は問わない。

2) 助成対象

鉄骨製作の「品質」「生産性」「作業性」などの向上が期待でき、且つ、鉄骨業界にとって有益となり得るもの。
※現場施工、安全、労務管理、事務効率化に関する研究開発は対象外。

※既に研究されたテーマや研究成果が特定者に帰属されるテーマは対象外。

3) 助成額

1テーマあたり最大300万円かつ自己負担額以下

※研究期間は1年以内。

4) 成果報告

研究期間満了後3カ月以内に研究成果（報告書及び会計）を報告する。

全構協は、研究成果（報告書）を全構協会報・HP、専門誌に掲載する。

5) 権利

・知的財産権（特許含む）は、申請者に帰属するが、その成果物は、全構協構成員が使用できるものとしなければならない。

・特許申請する場合は、全構協の承認を得なければならない。

・研究成果（報告書）の著作権は、全構協に帰属する。

【選考方法】

「鉄骨技術研究開発助成制度」による選考は、申請書に基づき、選考委員会（委員長：小野徹郎・名古屋工業大学名誉教授）が行い、理事会で決定する。

【これまでの助成実績】

平成29年度（研究期間：平成29年8月～平成30年7月）

テーマ	助成者
鋼構造建築物における溶融亜鉛めっき割れに関する研究	藤木鉄工株式会社
30度開先の実用化に向けた炭酸ガスアーク溶接における機械的性能に及ぼす影響	一般社団法人 山梨県鉄構溶接協会

平成30年度（研究期間：平成30年4月～平成31年3月）

テーマ	助成者
溶融亜鉛めっき高力ボルトの過大孔	協同組合 広島県鉄構工業会

【平成31年度 募集期間】

平成30年12月3日（月）～平成31年1月31日（木）

（研究期間：平成31年4月～平成32年3月）

【申請方法】

所定の申請書に必要な事項を入力し、所属の県組合に電子データで提出する。